

銀杏学園通信

ぎんぎょう

G I N K Y O



創立 60 周年記念事業

特集 SPECIAL FEATURE

学長就任あいさつ 教育改革について 創立 60 周年記念事業

NEWS&TOPICS

卒業式・修了式・卒業記念パーティー
入学式 他

ふれあい SALON

サークル INFO・新入生インタビュー

NO. 40
2019
JULY
www.kumamoto-hsu.ac.jp

02 Presidential Message

特集 1 学長就任あいさつ

04 Director Message

特集 2 教育改革について

06 Feature Articles

特集 3 創立 60 周年記念事業

08 News&Topics

News&Topics

11 Welcome to School

新任教職員紹介

12 Regional collaboration

地域連携／同窓会報告

13 Examination

平成 31 年度入学試験結果

14 Infomation

ふれあい SALON

15 Interview

新入生インタビュー

16 College data

学園情報

26 International exchange

国際交流

27 Infomation

Library／将来ビジョン

28 Infomation

令和 2 年度入試概要



No. 40 の表紙

創立 60 周年記念事業



■学長就任あいさつ

創立 60 周年の記 新しいスタート

本年 4 月に崎元達郎前学長の後任として、学長に就任致しました。どうぞ、宜しくお願い致します。

熊本保健科学大学は、昭和 34 年に（財）化学及血清療法研究所の公益事業の一環として創立された化血研衛生検査技師養成所を前身とします。その後、熊本医学技術専門学校、銀杏学園短期大学へと発展、平成 15 年 4 月に熊本保健科学大学として 4 年制大学に移行致しました。養成所創立から数えると今年で創立 60 周年を迎え、5 月 15 日の「創立 60 周年記念式典」におきましては、多くの関係各位にご臨席戴き、ご祝意を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

これまでの 60 年間の卒業生総数は、今年 3 月の卒業生を加えると 9,013 名で 9 千名を越えるとともに、熊本保健科学大学卒が 4,359 名となり、銀杏学園短期大学卒の 4,327 名を越え、大学の卒業生数が短大卒業生数を上回りました。おかげで本学は県内でも有数の大学の一つとして、認識されるほどになりましたが、此処に至るまでの多くの皆様のご支援に心から感謝申し上げるとともに、歴代の教職員各位のご尽力に敬意を表したいと存じます。

私は昭和 52 年に熊本大学医学部を卒業し、卒後すぐに病理学教室の大学院に進学し、一貫して病理学の教育研究に従事して参りました。合わせて病理診断業務にも従事し、大学病院はもとより、県内外の中核病院の病理検査室に出向して、病理診断に携わる機会を得ました。この間、多くの検査技師の皆様と交流を持つことが出来、検査室業務の一端に触れることも出来ました。この様な経験は、本学における新時代の医療従事者の育成にも生かせるものと思います。また、熊本大学における理事・副学長、生命科学部部長 / 医学教育部長 / 医学部部長の経験は、本学における管理運営に役立つものと思います。

念の年に 台に立つ！

竹屋元裕学長

本学は創立60周年を迎え、次の時代に向かって新しいスタート台に立ちました。この記念の年に学長を務めることになり、身の引き締まる思いです。私事で恐縮ですが、本学の創設期である化血研衛生検査技師養成所から銀杏学園短期大学に至るまでの初代学校長および初代学長を務めたのが、私の祖父の竹屋男綱でした。この度、創立60周年の記念の年に本学学長に迎えて戴いたことに大きな縁を感じるとともに、期待に応えるべく力を尽くしたいと思っています。

—昨年、崎元理事長・学長のもとで本学の将来ビジョンが策定され、「保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる」という大きな目標が掲げられました。この目標に向かって、これまでの高い国家試験合格率と就職率をさらに向上させ、「10年後も20年後も選ばれ続ける大学」として本学の充実と発展に努力致します。皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新学長プロフィール

竹屋 元裕 (たけやもとひろ)

昭和28年1月4日生まれ

<略歴>

昭和52年 熊本大学医学部医学科卒業

昭和56年 熊本大学大学院医学研究科病理系専攻(博士課程)修了

昭和63年 熊本大学講師(医学部 病理学第二講座)

平成5年 熊本大学助教授(医学部 病理学第二講座)

平成12年 熊本大学教授(医学部 病理学第二講座)

平成20年 熊本大学副医学部長・医学科長(併任)

(~平成23年3月)

平成22年 熊本大学大学院教授(生命科学研究部 細胞病理学

分野)に配置換

(~平成30年3月)

平成23年 熊本大学大学院生命科学研究部長・医学教育部長・

医学部長(併任)(~平成27年3月)

平成27年 熊本大学理事・副学長(~平成31年3月)

平成31年 熊本保健科学大学学長



理事長あいさつ

「生きる」をひらく かけがえのない一人に育てるための教育改革

崎 元 達 郎 理 事 長



「教育改革」について

1. 教育改革の目的

教育改革の目的は次の四つである。まず、①大学の大量化に伴う学力・資質、コミュニケーション力の低下などの学生の変化に対応し、主体的に学び続けることができる生涯学習力を備えた人材を育てる。次に②少子化、国際化、高度情報化、医療の進歩、AIの進歩、超高齢化による医療・福祉の姿や制度の変化（地域包括ケアの方向性）などの社会の変化に対応できる教育の実現。さらに、③高大接続システム改革や新学習指導要領による入学生（2024年度）への対応など国・文科省の動きに対する対応。そして④これらの結果として、10年後も20年後も選ばれ続ける大学であり続けるため。

2. 会議体の構成と役割

会議体の構成と役割は図-1に示す

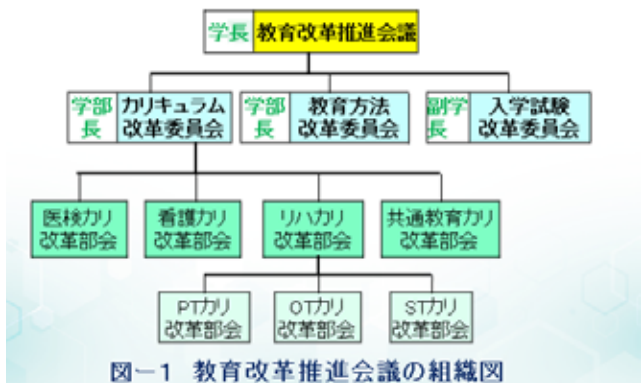
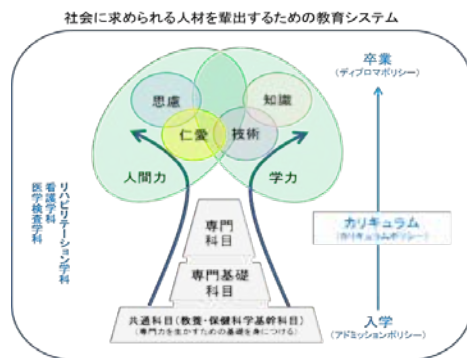


図-1 教育改革推進会議の組織図

3. 教育改革の内容

- 1) 入学者受入、教育課程編成・実施、卒業認定・学位授与の三つのポリシーを見直し新しく策定。（詳細は、ホームページ等を参照ください）
- 2) 各学科のカリキュラムの改訂

医学検査学科は平成30年度から、看護学科は、平成31(令和元)年度から、リハビリテーション学科は、令和2年度から改訂。その際科目ナンバリング、カリキュラムマップなどの作成・提示を実施。
(カリキュラムポリシーの見える化の実施)



3) アクティブラーニングの導入

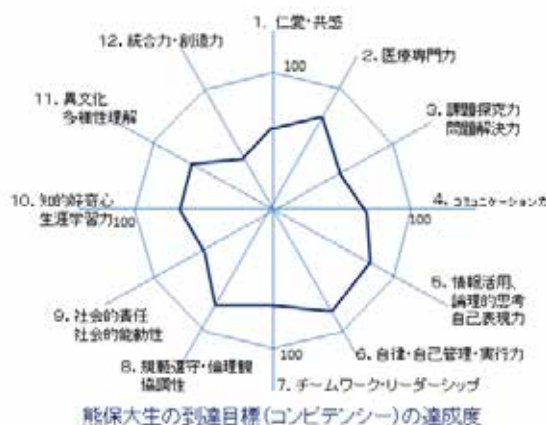
主体的・対話的で深い学びを追求するアクティブラーニングの導入。ちなみに、平成31(令和元)年度は専任教員が開講する全348科目の91.4% (318科目)においてアクティブラーニングを実施。

4) ルーブリック評価法の導入

ペーパーテストで測れないプレゼン力・コミュニケーション力・実習技能などパフォーマンスを評価するルーブリック評価法を導入。

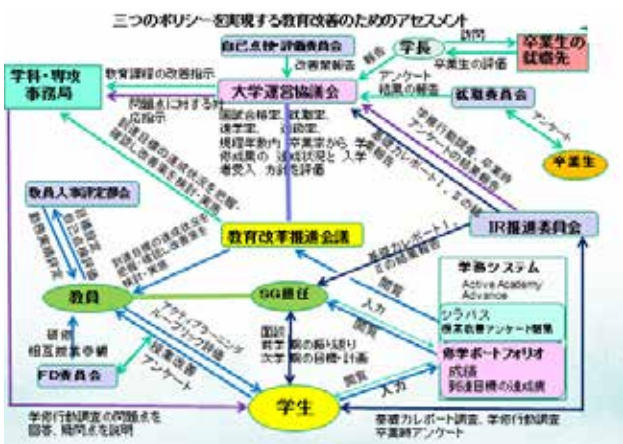
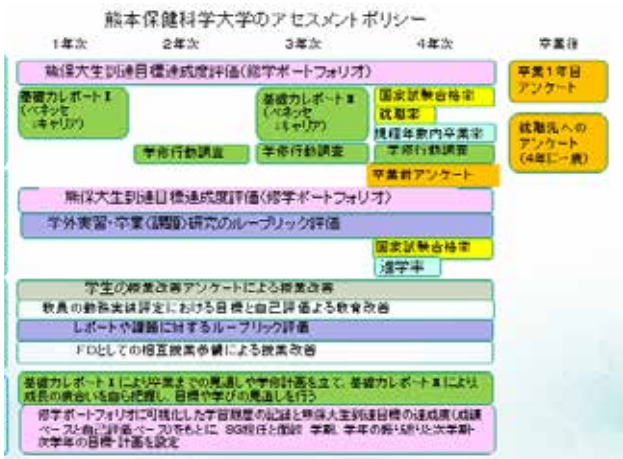
5) 修学ポートフォリオの導入

学修や諸活動で得られた力を可視化する修学ポートフォリオの導入。そこでは、下図に示すような五つのディプロマポリシーを含む12の熊保大生の到達目標（獲得すべき能力=コンピテンシー）を設定し、その達成度を学期ごとにレーダーチャートで表示し可視化する。学生は、部活・ボランティア・国際交流などの活動状況を記録するとともに、学期の振り返りと目標管理を行い、自らの成長を実感する。スモールグループ担任は、修学ポートフォリオの内容をもとに学生と面談し、的確な学修・生活指導、就職支援を行う。



6) アセスメントポリシーとアセスメントプラン

下図に示すようなアセスメントポリシーを定めるとともに、どの会議体でいつアセスメントを実施するかというアセスメントプランを策定・実施することにより、3ポリシーが実現されているかを評価し、教育の質保証をおこなうサイクルを確立した。

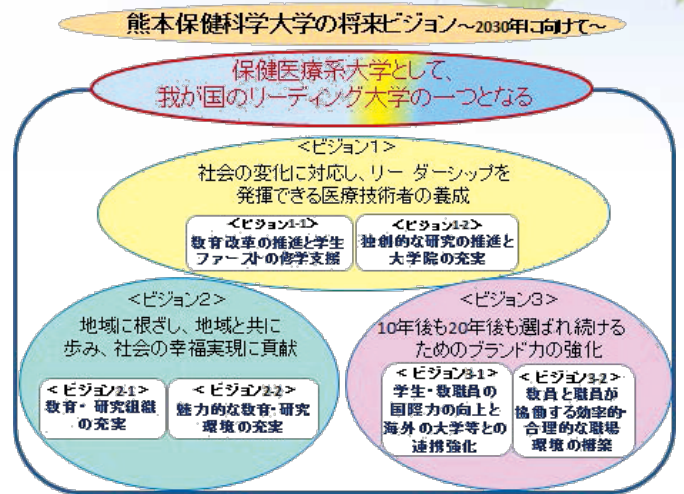


7) 人間力の養成

クラブ活動振興宣言、熊保大ボランティア・スピリット伝統の継承、そして更なる発展を！！宣言、米国短期留学プログラムの導入を行い、「知識」「技術」に加えてコミュニケーション力をはじめとする人間力を育成して、病院だけでなく、地域の施設や在宅においても活躍できる医療人・国際的にも活躍できる医療人の養成を目指す。

4. 将来ビジョンと中長期計画

2030年を目途に将来ビジョンを策定し、その実現のためのアクションプランとしての中長期計画（4年×3期、2019年～2030年）を策定した。



5. 関連する組織整備他

- 1) 熊本市・合志市との連携による地域包括連携医療教育研究センターの設置。
- 2) 障がいのある学生を含む多様な学生の修学を支援する学生相談・修学サポートセンターの設置。
- 3) 学生の論理的文章力と考える力を全学的にレベルアップするアカデミックスキルラボの設置。
- 4) キービジュアルとタグライン「[生きる]をひらく、かけがえのない一人に」を策定。

6. キャンパス拡張と施設の改修整備

大学と西里駅を直結し、夜も明るく安全な通学路を確保すると同時に、旧アリーナの1.5倍の面積のアリーナを平成29年度末に完成した。さらに、旧アリーナをレストランに改修し、現レストランを図書館と連続するラーニングcommonsに改修し、レストランスペースと図書館スペースの面積もほぼ倍増する工事に今年度着工し、2年後の令和3年2月頃に完成する予定である。これらの改修工事により、当初の約2倍になった学生数に対応できるさらに美しいキャンパスを構築し、上述の教育改革の実施を支える。

7. まとめ

拡張・整備した美しいキャンパスと再構築した教学マネージメント体制を新たな出発点として、「保健医療系大学として我が国のリーディング大学の一つとなる」という将来ビジョンの達成に向けて、全教職員・学生と共に、まい進したいと考えている。

創立 60 周年記念事業



創立 60 周年を迎えて

理事長 崎元 達郎

1959年（昭和34年）に設立された化血研衛生検査技師養成所を源とする本学は、本年創立60周年を迎えた。60周年は、人間で言えば還暦であるが、養成所・専門学校9年間、銀杏学園短期大学の35年間、4年制大学としての16年間で構成される。この60年間で、9013名の卒業生・修了生を輩出しており、「保健医療分野の教育と研究を通して社会に貢献できる医療技術者を養成する」というミッションを確実に果たしてきていることを共に喜びたい。創立50周年を祝った2009年（平成21年）以降の10年間の主な出来事は後にまとめているが、大学院保健科学研究科（修士課程）、認定看護師教育課程、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻などの新設、地域包括連携医療教育研究センター、学生相談・修学サポートセンター、アカデミックスキルラボなどの設置、さらに、教育改革の実施、将来ビジョンの策定、新アリーナを含むキャンパス拡張事業などが実施され、更なる発展を遂げたと思う。この記念事業に際して、学外実習施設・病院の関係者をはじめとして、本学の60年の歴史を共に築き、支えていただいた多くの皆様へ感謝しつつ、拡張・整備した美しいキャンパスと再構築した教学マネジメント体制を基盤として、「知識」と「技術」を究め「思慮」深さと「仁愛」の心で他者に接し生涯を通して成長し続ける医療人、すなわち、学生諸君を「生きる」をひらくかけがえのない一人に育て続けるという決意を全教職員と共に表明したい。

記念式典 特別講演会

令和元年5月15日（水）熊本保健科学大学アリーナにおいて、「学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 創立60周年記念式典・特別講演会・記念祝賀会」を開催しました。来賓、実習施設・就職施設関係者並びに本学の学生・教職員ら約500名で60周年の節目を祝いました。

記念式典前に学生によるバンド演奏やダンスがアトラクションとして披露され、和やかな雰囲気になりました。記念式典は、厳かな中で進行され、来賓祝辞、歴代理事長、学長、旧教職員への感謝状の贈呈等が行われ、最後に学園歌斉唱をして閉会となりました。

特別講演会では、本年4月に就任した竹屋元裕学長が挨拶と講師紹介を行いました。医療法人社団愛育会 福田病院理事長の福田稔先生が「西洋医学揺籃（ようらん）の地“熊本”」と題して、熊本の医学の歴史についてご講演くださいました。



式次第

アトラクション

1. RYUKYUバンド
2. ダンス部発表

記念式典

1. 開式
2. 式辞 理事長 崎元 達郎
3. 祝辞 熊本大学長 原田 信志 様
4. 感謝状贈呈
5. 祝詞・祝電披露
6. 学園歌斉唱
7. 閉式

特別講演会

1. 挨拶・講師紹介 学長 竹屋 元裕
2. 特別講演
演題 「西洋医学揺籃（ようらん）の地“熊本”」
講師 医療法人社団愛育会
福田病院 理事長 福田 稔 先生



記念祝賀会

記念式典・特別講演会終了後、本学レストランにおいて、記念祝賀会を開催しました。学生によるダンス披露も会を盛り上げてくれました。旧教職員との再会もあり、とても和やかな雰囲気の中で60周年を皆で祝い、会が終了しました。



会次第

- 開会
- 挨拶 学長 竹屋 元裕
- 乾杯 (一財)化血研 理事長 木下 統晴 様
- 歓談
- アトラクション
- 閉会の挨拶 副学長 高濱 和夫

50周年記念行事後の10年間の主な出来事 (60周年記念誌は、秋に郵送いたします)

船津・小野の6年間	2009年度	●大学院保健科学研究科（修士課程）を新設 ●キャリア教育研修センター認定看護師教育課程を新設（脳卒中リハビリテーション看護分野開講） ●50周年記念事業の実施、四綱領等の策定
	2010年度	●3号館・50周年記念館が完成 ●リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻第1回卒業生を輩出
	2011年度	●衛生技術学科を医学検査学科に改称 ●リハビリテーション学科に言語聴覚学専攻を新設
	2012年度	●認定看護師教育課程慢性心不全看護分野開講 ●熊保大10周年記念事業（同窓会連合発足）
	2013年度	●作業療法学専攻を生活機能療法学専攻に改称 ●熊本市と福祉避難所に関する協定締結 ●熊保大のミッションの策定 ●阿蘇市と災害時における包括的連携協定締結 ●小野学長熊日賞受賞
米満・崎元の4年間	2014年度	●大学機関別認証評価を受審 ●言語聴覚学専攻第1回卒業生を輩出
	2015年度	●教育改革に着手、船津理事長辞任・米満理事長就任
	2016年度	●ラーニングコモンズオープン、熊本地震発災 ●第2回保健科学国際シンポジウムを本学で開催 ●助産別科開設10周年記念事業の実施 ●同窓会連合会の発会式 ●新アリーナ起工式 ●米満理事長退任
	2017年度	●認定看護師教育課程（認知症看護分野開講） ●地域包括連携医療教育研究センターを設置 ●アカデミックスキルラボを開所 ●キャンパス拡張と新アリーナの完成 ●米国短期留学プログラムの実施
2018年度	●認定看護教育課程慢性心不全看護分野を開講 ●学生相談・修学サポートセンターを設置 ●ローソン熊保大店オープン ●教育改革の推進（2015～3ポリシーの策定、各学科のカリキュラムの改訂 ●アクティブラーニング、ルーブリック評価、修学ポートフォリオ、アセスメントポリシー、クラブ活動振興宣言、ボランティアの伝統継承と発展宣言） ●済生会熊本病院等との連携協定締結 ●将来ビジョン、タグライン、キービジュアルの策定 ●熊本学園大学との連携協定締結 ●2030年までの中長期計画を策定（将来ビジョンのアクションプランとして）	

News&Topics

N&T

卒業式・修了式

平成31年3月8日（金）本学アリーナにおいて、医学検査学科116名、看護学科122名、リハビリテーション学科139名（理学療法学専攻48名・生活機能療法学専攻45名・言語聴覚学専攻46名）、大学院保健科学研究科7名、助産別科21名、総計405名の卒業式・修了式を挙行了いたしました。多数のご来賓・保護者の皆様にご臨席いただきましてありがとうございました。崎元学長から、各学科専攻及び大学院保健科学研究科の代表者へ学位記を、助産別科の代表者へ修了証書が授与されました。また今年は総合成績優秀者賞6名、G P A賞12名、酒匂賞3名、優秀論文賞1名、特別賞1組、学部長表彰2名、述べ24名1組が表彰されました。

卒業生を代表として看護学科岡本莉奈さんが、答辞を述べました。卒業生の皆様の今後の健闘を心よりお祈りします。

【総務課】



N&T

卒業記念パーティー

平成31年3月8日（金）、卒業生310名をはじめ総勢410名が熊本ホテルキャッスルに集い、卒業記念パーティーが開催されました。崎元学長が祝辞を述べられたあと、堀看護学科長の乾杯の発声を合図に和やかな雰囲気の中で宴がスタート。徐々に会場内の熱気が高まると、教員への感謝の気持ちが込められた動画が上映されました。趣向を凝らした作品が会を一層盛り上げ、さらにスモールグループごとに花束や記念品の贈呈がおこなわれました。最後に、植原医学検査学科長の音頭による万歳三唱で締めくくりました。終宴を迎え、名残惜しそうでしたが、新たな門出にふさわしい笑顔溢れる時間となりました。卒業生のみなさんのご活躍を心よりお祈りいたします。

【学務課】



N&T

入学式

平成31年4月2日（火）桜が満開を迎えた春の良き日に、竹屋 新学長をお迎えし、本学アリーナにおいて入学式を挙行了いたしました。医学検査学科117名、看護学科127名、リハビリテーション学科134名（理学48名・生活39名・言語47名）、大学院4名、助産別科20名、認定看護師教育課程24名、総計426名の新入学生・研修生を迎え、多数のご来賓、保護者の皆様にご臨席いただきました。今年は新入学生・研修生を代表して看護学科の橋本いおりさんが宣誓を行いました。新入学生それぞれが新しい大学生活のスタートを切りました。

【総務課】



N&T

学友会 新入生歓迎パーティー

学友会副会長 東 千尋

平成31年4月8日（月）、熊本市水道町のメルパルク熊本にて新入生歓迎パーティーを開催しました。新入生へのおもてなしと新入生同士の交流を目的とし、交流を図るための企画として「熊保大クイズ大会」を開催しました。学友会生や新入生の交流も見られ、現在の学友会活動にも繋がっています。この繋がりを大切に、これからの活動に活かしていきたいと思っております。参加して下さった新入生の皆さん、ご協力して下さった先生方ありがとうございました。





後援会役員紹介

本学後援会は、前身である銀杏学園短期大学の開学（昭和43年）と同時に結成されました。学園における教育の発展と施設の充実、会員と大学との協調を図ることを目的として、全ての学生の保護者に会員になっていただき、ご支援をお願いしております。

後援会総会は例年同様、平成31年度熊本保健科学大学入学式当日の4月2日に開催されました。総会では平成30年度決算報告、平成31年度予算案等の審議が行われ、役員改選では、卒業・入学等に伴い9名の役員が退任されると共に、新たに8名の役員が就任されました。

以下に、新役員を紹介します。（各役職とも五十音順に掲載。敬称略）

会長（1名）：西澤 裕司

副会長（3名）：栗屋 由香，上土井 恭子，濱岡 靖子

理事（11名）：赤星 恵美，池島 香織，岩本 博，緒方 乃里江，栗原 大治，黒澤 禎治，田中 祐美子，中山 美樹，西村 良子，樋口 達巳，松田 恵美子

監事（3名）：内田 富美代，宮崎 ゆかり，宮本 理恵

会計（1名）：井上 智勝

※下線の方が新たに就任されました。

【学務課】



平成30年度 進路状況

就職委員長 古閑 公治

平成30年度進路（就職・進学）状況についてご報告いたします。就職について、就職決定率は医学検査学科が100%（100名／100名中）、看護学科が100%（100名／100名中）、リハビリテーション学科で理学療法学専攻が100%（45名／45名中）、生活機能療法学専攻が100%（43名／43名中）、言語聴覚学専攻が100%（43名／43名中）、助産別科が100%（21名／21名中）でした。また、就職先の施設は、国公立病院、大学附属病院、民間病院、保健医療系企業などでした。さらに、21名（医学検査学科1名、看護学科18名、リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻2名）が本学大学院・助産別科、熊本大学大学院、熊本大学養護教諭特別別科などへの進学でした。従って、進路決定率は100%（373名／373名中）でした。

これからも私たち教職員は、学生たちの充実した就職環境を整えるとともに、全力で学生たちの就職活動を支援いたします。卒業生・修了生の皆様方におかれましても、より一層本学へのご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



平成30年度 国家試験結果報告

前国試対策委員長 正木 孝幸

第102回助産師国家試験は平成31年2月14日に実施され、助産別科12期生21人が受験し21名全員合格しました。第105回保健師国家試験は平成31年2月15日に実施され、看護学科13期20名中18名合格（90.0%）、第108回看護師国家試験は平成31年2月17日に実施され、看護学科13期122名中118名合格（96.7%）しました。

第65回臨床検査技師国家試験は平成31年2月20日に実施され、医学検査学科13期生113名が受験し94名合格（83.2%）でした。

第54回理学療法士国家試験および第54回作業療法士国家試験が平成31年2月24日に実施され、リハビリテーション学科理学療法学専攻9期生48名が受験し45名合格（93.8%）し、生活機能療法学専攻9期生45名が受験して41名合格（91.1%）しました。第21回言語聴覚士国家試験は平成31年2月16日に実施され、言語聴覚学専攻5期生46名が受験し45名合格（97.8%）でした。

本学卒業生合格率を全国平均と比較すると、助産師は100%（全国平均+0.4%）、保健師90.0%（全国平均+8.2%）、看護師96.7%（全国平均+7.4%）、臨床検査技師83.2%（全国平均+8.0%）、理学療法士93.8%（全国平均+8.0%）、作業療法士91.1%（全国平均+19.8%）および言語聴覚士97.8%（全国平均+28.9%）と、いずれも全国平均を上回りました。



アカデミックスキル開始

共通教育センター 渡辺 雄一

「アカデミックスキル」は全学必修の教養科目群です。1年前期のⅠ（入門）、後期のⅡ（基礎）、そして2年前期のⅢ（応用）と、3期連続で学びの基礎力を養います。読む、書く、発表するなどのスキル修得を通して、考える、議論する、協働する、伝達する、などの力を育成します。

平成31年4月12日（金）にFD特別セミナーを開催しました。今回は、崎元達郎理事長（前学長）に「熊保大の現状と将来～教育改革を中心に～」と題してご講演いただきました。崎元先生は2015年4月に学長に就任されてからの4年間に、「教育改革推進会議」を立ち上げ、様々な教育改革の陣頭指揮を執ってこられました。講演では、これまでの教育改革の成果と将来ビジョン、アセスメントプランの構築などが示され、時代の一步先を目指す崎元先生の教育改革への想いや情熱が参加者に十分に伝わってくる内容でした。



認定式は正式名称を臨地実習認定書授与式といい、学長から新3年生に臨地実習適格認定書が授与され、実習に臨むための責任と覚悟を求めます。

臨地実習は、知識・技術・態度を自ら統合し、より一層理解を深めるために不可欠の学習です。特に看護実践に極めて重要な援助的人間関係形成力や専門職者の役割や責務を果たす力は、患者さんや利用者さん等と相対し、緊張しながら学生自らが看護行為を行う過程で育まれると言われており、たいへん重要な学習機会です。



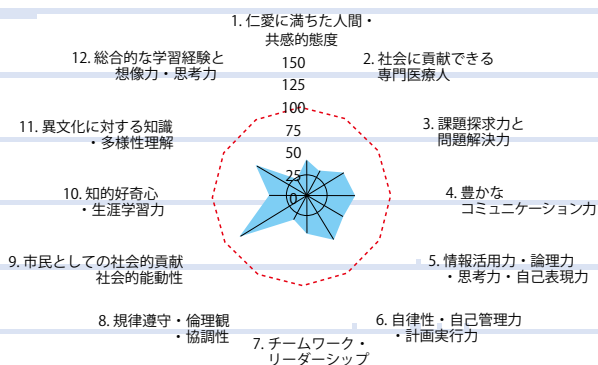
2019年度より、修学ポートフォリオの本格的な活用を始めました。その機能のひとつとして、卒業認定・学位授与の方針を含む12の熊保大生到達目標（コンピテンシー）の達成度をレーダーチャートで表示することで視覚化します。これにより学生の主体的な学びを醸成し、併せてスモールグループ担任による、より充実した修学指導を実現します。【学務課】

科目成績による熊保大生到達目標（12の力）の達成度をレーダーチャートで視覚化します。

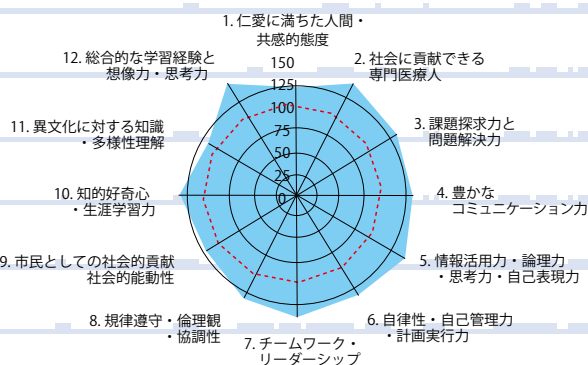
このグラフは科目成績により表示された一例です。
学年を重ね修得単位の積み上げとともにグラフが大きくなり、自信の成長を実感することができます。

卒業時に到達が望まれる達成度ライン
達成度スコア

1年（2015年度）後期までの成績



4年（2018年度）後期までの成績



～新任教職員紹介 ようこそ、熊本保健科学大学へ～

学長



竹屋 元裕
(たけやもとひろ)
学長・教授

4月1日より学長に就任致しました。熊本大学での理事・副学長および医学部長としての経験を生かして、本学の発展に努力したいと思います。専門は病理学で、とくにマクロファージと病態との関わりについて研究を行ってきました。本学では病理学の講義も担当致します。趣味は音楽鑑賞と男声合唱です。よろしくお願致します。

看護学科



松本 佳代
(まつもとかよ)
講師

在宅看護学領域に着任いたしました。熊本保健科学大学の理念やビジョンに感銘を受けておりますとともに、学習支援体制が充実していると感じています。教育のより一層の充実のためにできることを考え、楽しく学んでもらえるよう工夫していきたいと思っております。よろしくお願致します。

看護学科



森山 雄三
(もりやまゆうぞう)
助教

4月1日より着任いたしました森山と申します。3月までは看護師として小児看護に携わっておりました。これからは培ってきた経験を生かし、専門職として医療・保健・福祉で活躍する人材の育成と地域に貢献できる研究を行っていきたく考えております。精一杯頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願致します。

リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻



宮田 浩紀
(みやたひろのり)
講師

生活機能療法学専攻に着任いたしました宮田です。地域作業療法学を中心に講義を行っています。回復期やデイケア、訪問リハビリテーションなど生活期の知識・経験をもとに教育・研究に努めたいと思っております。誰もが住み慣れた地域で生活していくための支援や工夫を考えていきます。どうぞよろしくお願致します。

助産別科



山本 美由紀
(やまもとみゆき)
講師

助産別科に着任いたしました。助産師として多くの出産に立ち会わせていただき、女性と愛しい赤ちゃんの傍らに居ることの幸せと責任を感じ、助産師教育に携わってきました。女性の産む力と児の産まれる力を引き出す支援の在り方を学生の皆さんと考えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

法人事務局・大学事務局

富永 飛鳥
(とみなが あすか)
実習支援課
一般嘱託

2月より実習支援課の一般嘱託職員として勤務しております。前職は専門学校で教務事務をしておりました。業務内容が違い、不安な気持ちで入職しましたが、周りの方々のサポートと学生さんの笑顔に支えられております。1日でも早く、皆様のお力になれるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。

法人事務局・大学事務局

長友 祐香里
(ながともゆかり)
経理課
一般嘱託

一昨年の9月より、派遣で経理課に勤務しておりましたが、4月から一般嘱託職員として、お世話になっております。仕事の幅が広がり、忙しい日々を過ごしておりますが、とてもやりがいを感じ、楽しくお仕事を出来ていることに感謝しております。これからも、皆様と一緒に、大学のために頑張ります。よろしくお願いたします。

法人事務局・大学事務局



北村 茜
(きたむらあかね)
教学支援課
一般嘱託

5月1日付で学科事務として医学検査学科に勤務することとなりました。前職では英会話教室でスクールマネージャーとして勤務しており、大学での勤務は初めてのため、慣れないことも多くご迷惑をおかけするかと思いましたが、早く皆様のお力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

法人事務局・大学事務局



犬童 美穂
(いんどう みほ)
就職支援課
一般嘱託

昨年まで娘が在学しており、学友会や就職活動でたくさんのお世話になりました。彼女は熊本大の4年間で大きく成長したと思います。縁あって6月1日より働くことになりましたので、感謝の気持ちをこめて精一杯学生さんをサポートしていきたく思います。どうぞよろしくお願いたします。

学校法人銀杏学園 理事・幹事・評議員一覧 (R1.5.29～)

役職	氏名	所属
理事長	崎元 達郎	学校法人銀杏学園 理事長
	竹屋 元裕	熊本保健科学大学 前学長
	福田 稔	熊本保健科学大学 学長
	高濱 和夫	熊本県医師会 会長
	杉内 博幸	熊本保健科学大学 副学長
	木下 統晴	熊本保健科学大学 副学長
	副島 秀久	一般財団法人化学及血清療法研究所 理事長
	高橋 毅	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 熊本県済生会 支部長
	猪股裕紀洋	国立病院機構 熊本医療センター 院長
	田川 憲生	熊本大学病院 元院長 熊本労災病院 院長
佐藤 哲朗	熊本商工会議所 前会頭	
監事	林田 喜一	税理士
	溝上 寛	一般財団法人化学及血清療法研究所 元常務理事・元副所長
	竹屋 元裕	熊本保健科学大学 学長
	高濱 和夫	熊本保健科学大学 副学長
	杉内 博幸	熊本保健科学大学 副学長
	楢原 真二	熊本保健科学大学 学部長
	今村 修	学校法人銀杏学園 法人局長
	瀧口 巖	同窓会連合会 会長
	原田 精一	医学検査学科同窓会 会長
	中野 博之	看護学科同窓会 会長
評議員	池田 夕希	助産別科同窓会 会長
	福田 稔	熊本県医師会 会長
	園田 寛	熊本市医師会 会長
	福吉 葉子	熊本県臨床検査技師会 副会長
	嶋田 晶子	熊本県看護協会 会長
	坂崎 浩一	熊本県理学療法士協会 会長
	内田 正剛	熊本県作業療法士会 会長
	山本 恵仙	熊本県言語聴覚士会 会長
	谷原 秀信	熊本大学病院 院長
	平田 稔彦	熊本赤十字病院 院長
評議員	米満弘一郎	医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長
	浅山 弘康	熊本県経営者協会 顧問
	毛利 浩一	株式会社フードパル熊本 代表取締役
	内田 昭治	西里校区自治協議会 会長
	馬場 啓	学校法人銀杏学園 顧問弁護士
	木下 統晴	一般財団法人化学及血清療法研究所 理事長
	藤井 隆	一般財団法人化学及血清療法研究所 副理事長

地域連携

「花と食の祭典」

(令和元年5月3日(金)～5月4日(土) 会場：熊本市食品交流会館)

株式会社フードパル熊本主催のイベント「花と食の祭典」に今年も参加し、一般の方を対象に健康チェックを実施しました。医学検査学科では体成分測定・骨密度測定・血管年齢測定を、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻ではことばのチェック・飲み込みチェックを教員の指導のもと学生が行いました。イベント1日目は216名、2日目には206名の方が本学のコーナーで測定を受けられ、好評を博しました。これからも医療系大学の特性を活かした内容で地域に貢献していきたいと思っております。



「第79回西里校区グラウンドゴルフ大会」

令和元年5月26日(日)、西里校区グラウンドゴルフ大会が本学グラウンドにて開催されました。雨天による延期での開催となりましたが、この日は天候にも恵まれ、まさにグラウンドゴルフ日和といった様子でした。学生ボランティア9名とともに私も参加してまいりましたが、何分初心者のため真っ直ぐボールを飛ばす打ち方や、力の加減など同チームのベテランの方々から教えてもらいながらコースを回りました。学生もスコアの付け方を教えてもらい、チームの一員として活躍している様子で、とても良い交流となったように思います。(地域連携委員会事務局)



久しぶり、元気かい(会)!!

平成31年2月9日(土)、ホテル日航熊本におきまして、平成30年卒業生の同期会「久しぶり、元気かい(会)」を開催いたしました。その主たる目的は、懇談会を通して近況報告を行い、教職員と卒業生が相互に親睦を深めることです。今回で12回目を迎え、恒例行事となっております。当日は208名(医学検査学科卒業生60名、看護学科卒業生27名、リハビリテーション学科卒業生66名、教職員等55名)の方々にご参加いただきました。参加された卒業生からは「認定資格取得という目標を立てました」、「久しぶりに友人と会うことができ嬉しかったです」、「忙しいけれど毎日頑張っています」などのお話を聞くことができました。約一年ぶりの再会に皆さま話題が尽きず賑やかな会になりました。今後、益々のご活躍を期待しています。(就職支援課)



同窓会活動

4学科合同同窓会

平成31年3月9日(土)において、第2回同窓会連合「銀杏の会」(医学検査学科・看護学科・リハビリテーション学科・助産科合同同窓会)の講演会と懇親会を実施した。場所はザ・ニューホテル熊本にて14:30より開始し、来賓として崎元達郎理事長・河瀬晴夫事務局長をお迎えした。講演内容は熊本機能病院の赤坂威史先生に「災害に医療従事者として向かい合うこと～熊本地震からの経験から～」と題してメインの講演をお願いし、その後に看護学科熊本大2回生卒業の立石裕太郎氏(熊本赤十字病院)、医学検査学科銀大16期生卒業の田中信次氏(日赤熊本健康管理センター)のお二人に経験談を話して戴いた。講演会終了後、懇親会をリハ学科同窓会に担当をお願いして実施した。懇親会後半にはビンゴ大会が行われ、参加者全員で盛り上がった。参加者が80名程度だったので目標数よりはやや少なかったことを、次回開催に活かしていきたいと考える。(熊本保健科学大学同窓会連合 会長 瀧口 巖)



第4回熊本保健科学大学医学検査学科 中四国支部同窓会報告

平成31年4月13日に広島ガーデンパレスで開催されました。中四国支部同窓会は2年に1度開催されています。佐藤支部長、松浦副支部長のご協力のもと4回目の支部会を無事終了することができました。先生、他施設で働く同窓生の先輩、後輩と意見交換でき、学会や研修会では得られないような刺激を貰える場ではないかと思っています。熊本からは同窓会副会長の奥羽様、熊本保健科学大学の古閑先生、松原先生、佐々木先生が参加されました。古閑先生からは大学の近況報告がありました。その他にも高知県、山口県、広島県の代表者から各県の良いところと学生実習での取り組みについてお話しいただきました。各病院、技師会での取り組みを学ぶことができ、今後の学生教育業務に活かせるのではないかと思います。中四国地方には意外にもたくさんの卒業生がいます。細く長くこの会を続けていけたらと思っていますので、中四国地方の卒業生の皆様これからもどうぞご協力よろしくお願い致します。

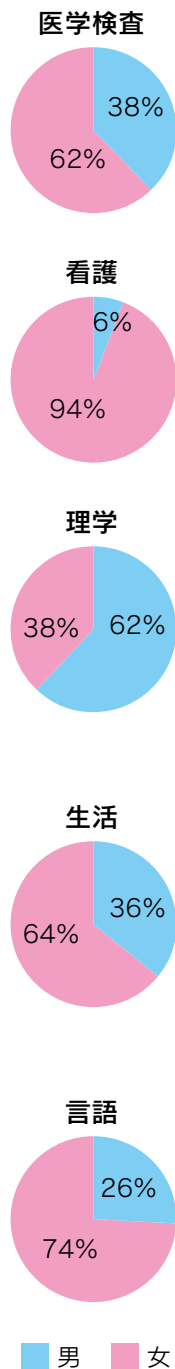
(国立病院機構 岡山医療センター 中川智博(熊本大3期生))



平成31年度入学試験結果

学科	入試区分	募集数	志願者	合格者	入学者	志願倍率	実質倍率	
医学検査学科	指定校推薦	15	12	12	12	—	—	
	一般推薦	35	71	35	35	2.0	2.0	
	一般	40	190	109	59	4.8	1.7	
	センター（前期）	5	125	59	6	25.0	2.1	
	センター（後期）	5	7	5	5	1.4	1.4	
	学科合計	100	405	220	117	4.1	1.8	
看護学科	指定校推薦	15	12	12	12	—	—	
	一般推薦	32	88	32	32	2.8	2.8	
	一般	43	282	118	66	6.6	2.4	
	センター（前期）	5	140	58	13	28.0	2.4	
	センター（後期）	5	16	5	4	3.2	3.2	
	学科合計	100	538	225	127	5.4	2.4	
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	指定校推薦	5	3	3	3	—	—
		一般推薦	15	41	15	15	2.7	2.7
		一般	15	87	38	26	5.8	2.3
		センター（前期）	3	63	21	3	21.0	3.0
		センター（後期）	2	4	2	1	2.0	2.0
		社会人	若干名	0	0	0	—	—
	専攻合計	40	198	79	48	5.0	2.5	
	生活機能療法学専攻	指定校推薦	5	2	2	2	—	—
		一般推薦	15	24	15	15	1.6	1.6
		一般	15	29	22	13	1.9	1.3
		センター（前期）	3	34	32	7	11.3	1.1
		センター（後期）	2	1	1	1	0.5	1.0
		社会人	若干名	0	0	0	—	—
		外国人留学生	若干名	1	1	1	—	1.0
	専攻合計	40	91	73	39	2.3	1.2	
	言語聴覚学専攻	指定校推薦	5	3	3	3	—	—
		一般推薦	15	25	15	15	1.7	1.7
		一般	15	35	22	19	2.3	1.6
		センター（前期）	3	61	46	10	20.3	1.3
		センター（後期）	2	2	1	0	1.0	2.0
		社会人	若干名	0	0	0	—	—
専攻合計	40	126	87	47	3.2	1.4		
学科合計	120	415	239	134	3.5	1.7		
保健科学部合計		320	1,358	684	378	4.2	2.0	

入学者の男女比



令和元年 学生在籍者数

(5月1日現在)

	保健科学部							助産別科	大学院保健科学研究科	認定看護師教育課程 (認知症看護分野)	大学合計
	医学検査学科	看護学科	リハビリテーション学科				学部合計				
			理学療法学専攻	生活機能療法学専攻	言語聴覚学専攻	学科合計					
1年	118	127	49	40	48	137	382	20	4	25	431
2年	124	118	47	45	44	136	378		7		385
3年	106	111	42	41	44	127	344				344
4年	114	109	44	43	49	136	359				359
計	462	465	182	169	185	536	1,463	20	11	25	1,519

学友会役員紹介



令和元（2019）年度学友会会長
リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻3年
迫田 そら

令和元（2019）年度学友会会長を務めさせていただきます、リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻3年の迫田そらです。副会長の東千尋（生活機能療法学専攻3年）、久多見健太（医学検査学科2年）、他105名の学友会運営部役員と共に先生方をはじめ、事務局の皆様や4年生相談役の先輩方の力をお借りして1年間務めさせていただきます。

今年度の学友会の方針は、学友会活動の効率化とパイプ役の拡大化です。例年の学友会活動において、アナログ重視で後の学友会生に引き継がれにくかった部分をデジタル化し、より正確で効率的な学友会運営を目指しています。また、大学と学生とを繋ぐパイプ役としての学友会をより一層相談しやすい場所にする為に、目安箱と併用しSNSやメールでも意見を受け付けられるようシステムを構築しました。

学生と大学を繋ぐ役割として活躍できるよう努めてまいります。1年間どうぞよろしくお願いたします。



球技大会



令和元（2019）年度学友会副会長
医学検査学科2年
久多見 健太

令和元（2019）年6月15日（土）スポーツ熊本にてボウリング大会を開催しました。1チーム4名で教職員を含め41チーム、計164名にご参加いただきました。今年も昨年と同様に2ゲーム行い、チームの合計スコアで競い合いました。1,2,3位のチームには賞金を用意し、別にブービー賞として看護同窓会賞を用意しました。また男子が有利のように思われたので女子にはハンデを設けました。複数の学科で出場しているチームや、先輩後輩で出場しているチーム、男女混合のチームも見られ、大学内での交友関係の幅を広げる良い機会になったと思います。新体制となったばかりの学友会で運営を行いました。多くの1,2年生が手伝いに参加しスムーズに大会を進めることができました。また当日に会場を貸していただいたスポーツ熊本様ありがとうございました。今後も皆さんの大学生活がより楽しいものになるようなイベントをた

くさん企画していきま
すので、共に大学を
盛り上げていきましょ
う。



CIRCLE INFORMATION

剣道部

みなさんこんにちは、剣道部です！私たちは男女合わせて11人と少し少ないですが、週一の稽古で学外の学生や卒業された先輩方とも一緒に、にぎやかに、和気あいあいと竹刀を交えています。

数年前までは部員がいない状態でしたが、少しずつ部員も増えてきました。これから大会入賞を目標に新たな「熊保剣道部」を形作っていくところ。剣道は礼儀や作法を重んじ、少し窮屈なスポーツだと思う人もいますが、私たちは全く固くなることなく笑いながら全力で楽しい稽古をしています！

少しでも気になった方はぜひ見学からでも来てみてください、待ってます！

部長 正代 貴子
部員 11名
活動場所 旧アリーナ



Lovers

私たちは難病患者さんやそのご家族との出逢いの中で、「愛を考え、愛を感じ取る」という理念のもとに活動する医療ボランティアクラブです。1セメスターに2回以上参加することを目標に活動しています。自分のペースに合わせてボランティア活動を行えます。大きな活動としては難病患者さんやそのご家族の方との交流会や日帰り旅行の介助、クリスマス会などのイベントのお手伝いを行っています。人とのつながりを感じながら一緒に楽しくボランティアに参加しませんか？

部長 狩野 葵
部員 60名程度
活動場所 おもに学外



新入生 インタビュー



今年度の新入生に入学しての感想・これからの抱負・楽しみにしている事 etc...をインタビュー！



医学検査学科
黒田 実李

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

初めての環境の中で最初は不安でしたが、今は友人もでき、楽しい学校生活を送っています。大学は、どの施設もとても充実しており、自分の学びたい事とことん追求できる環境であると感じています。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

ボランティア活動とアルバイトです。大学生の間だからこそ出来る事だと思うので、積極的に取り組み、様々な人との出会いを大切にしながら、自分の視野を広げたいです。

最後にひとこと！

理想の臨床検査技師をイメージしながら、何事にも一生懸命取り組みたいです。



看護学科
嶋村 優里

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当初は、大学での勉強についていけるか、友達ができるかなど不安なことがたくさんありましたが、先輩方や先生方からのアドバイスを聞くことができる機会が多かったので、今では毎日とても楽しく過ごすことができています。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

ボランティア活動やサークル活動、アルバイト、旅行などです。大学生の時にしかなかなかできないこともたくさんあると思うので、自分の視野を広げるために積極的に多くの活動に参加していきたいです。また長期休みでは旅行や車の免許をとりたいです。

最後にひとこと！

大学での学びや人との関わりを大切に、自分の目標に向かってがんばっていききたいです！



リハビリテーション学科 理学療法学科専攻
内田 真鈴

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

勉強は難しいですが、毎日充実しています。周りの同じ目標を持った仲間からたくさんのいい刺激を受け、4年間で成長できるように頑張りたいです。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

ボランティア活動と海外旅行です。ボランティア活動を通して幅広い年代、様々な職業の方々と交流していきたいと思っています。また、機会があれば海外旅行に挑戦し日本にない海外の良さを学び、自分の視野を広げられたらと思います。

最後にひとこと！

たくさんの人からいい刺激を受け、自分の理想の理学療法士になれるように頑張りたいです。



リハビリテーション学科 生活福祉療法学科専攻
新立 啓人

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当初、僕は、今までと全く違う環境ということもあって不安でいっぱいでした。しかし、周りの友人は明るく元気で、たくさん話していくうちにすぐに馴染むことができました。勉強や将来のことでまだまだ不安なことはありますが同じ道を目指す友人達と協力して頑張っていきたいです。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

私は子どもが好きで、将来は子どもに関わっていきたいと思っています。なので子どもの発達に関する授業やボランティアには特に積極的に参加していきたいと思っています。また、信頼される作業療法士になれるよう、行動や言葉使いには気をつけて大学生活を送っていきたいと思っています。

最後にひとこと！

これからの大学生活、かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻めをモットーに頑張っていきたいと思います。



リハビリテーション学科 言語聴覚学科専攻
芳任 茉莉

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当時は身体面での不安が大きかったのですが、沢山の先生方に支援して頂き、今では安心して学業に勤しむことが出来ています。友人もいい人ばかりで、この大学に入学できてよかったと思っています。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

アルバイトと短期留学です。アルバイトを通して沢山のひとと交流し、コミュニケーション能力を高めていきたいです。また、日本と海外の違いを自分自身で体感し、視野を広げていきたいです。

最後にひとこと！

4年間で様々なことを学び、理想の言語聴覚士になれるように頑張りたいと思います。



助産学科
松嶋 愛弥

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

私は、本学の看護学科を卒業して、助産別科に入学しました。先生たちはしっかりとサポートしてくださり、実習室など学習施設が整っているため、とても恵まれた環境で学生生活を送ることができています。授業や実習準備など忙しいため、1週間過ぎるのが早く、あっという間に感じます。大変なこともあります、友人たちと励ましあいながら、頑張っていきたいです。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

地域の方を対象とした、ベビーマッサーやもうすぐパパママ教室などのボランティアに参加することを楽しみにしています。ボランティアでは、妊婦さんやご家族とお話することができるので、関わり方を身につけられるといいなと思います。

最後にひとこと！

短い期間ですが、自分のなりたい助産師像に近づけるよう、一日一日を大切にしながら充実した1年間を送りたいです。



大学院
平江 満充帆

Q1. 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

私は熊本保健科学大学を卒業し、そのまま大学院へ進学しました。大学院では他の領域を学んでいる方と関わる機会も多く、お互いに情報交換もできるため、色々な分野に触れることができています。初めは大学院生活に不安もありましたが、先生方の温かく丁寧なご指導があり、充実した大学院生活を送っています。

Q2. 大学生活でやってみたいことは？

専門の領域での学びに限らず、他職種の視点から見たリハビリテーションについても学びたいと思っています。そして、自分の専門分野にどのように活かしてゆけるのかを考え、さらに知識を深め、技術として身につけることができるよう努力をしてゆきたいです。

最後にひとこと！

これから2年間学ぶことのできる貴重な時間を持つたことに感謝し、少しずつ積み上げたことが、いつの日か誰かの役に立てるよう力になれるよう目標を胸に、日々を大切に過ごしたいと思います。

平成30年度決算報告

(法人経理課長 平緒泰弘)

学校法人銀杏学園の平成30年度決算は、令和元年5月29日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表を掲載し報告いたします。

①事業活動収支計算書

平成30年度の経常収支差額は107百万円と収支均衡を達成しており、前年度より134百万円増加しました。

まず、事業活動収入は2,487百万円となり、前年度より13百万円減少しました。これは、教育活動収入が前年度より22百万円増加、教育活動外収入が前年度より4百万円増加したものの、前年度交付の私立大学建物其他災害復旧費補助金(熊本地震44百万円)の影響もあり、その他の特別収入が40百万円減少したことなどによりです。

一方、事業活動支出は2,368百万円となり、前年度より107百万円減少しました。これは、アリーナ竣工に伴う熊本市への道路寄付129百万円を前年度に実施した影響が大きく、管理経費が140百万円と大幅に減少したことなどによりです。

②資金収支計算書

平成30年度の翌年度繰越支払資金は1,797百万円となり、前年度繰越支払資金1,553百万円より244百万円増加しました。

これは、有価証券の償還等により資産売却収入852百万円が計上されましたが、再運用額は資産売却支出600百万円とし、レストラン改修等の資金として差額252百万円を確保したことなどによりです。

③貸借対照表

総資産は9,929百万円となりました。その内訳は負債670百万円、純資産9,259百万円となります。

総資産額は減価償却などにより前年度より301百万円減少。負債はアリーナ建設に係る支払が完了したことなどにより前年度より420百万円減少する一方で、純資産額は前年度より基本金組入前当年度収支差額となる118百万円が前年度より増加したことによりです。

事業活動収支計算書要約 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位:千円)

事業活動収支				資金収支			
科目	平成30年度決算	平成29年度決算	増減	科目	平成30年度決算	平成29年度決算	増減
学生生徒等納付金	2,027,040	2,016,350	10,690	資産売却差額	0	0	0
手数料	41,802	44,361	△2,559	その他の特別収入	11,460	51,922	△40,462
寄付金	24,738	3,320	21,418	特別収入計	11,460	51,922	△40,462
経常費等補助金	306,268	287,612	18,656	資産処分差額	31	29	2
付随事業収入	2,185	4,280	△2,095	その他の特別支出	0	0	0
雑収入	26,434	49,781	△23,347	特別支出計	31	29	2
教育活動収入計	2,428,466	2,405,704	22,762	特別収支差額	11,430	51,893	△40,463
人件費	1,302,303	1,261,887	40,416	基本金組入前当年度収支差額	118,986	24,972	94,014
教育研究経費	868,545	877,741	△9,196	基本金組入額合計	△561,433	△1,212,563	651,130
管理経費	196,372	336,517	△140,145	当年度収支差額	△442,447	△1,187,591	745,144
徴収不能額等	1,300	0	1,300	前年度繰越収支差額	△2,521,342	△1,333,751	△1,187,591
教育活動支出計	2,368,520	2,476,145	△107,625	基本金取崩額	0	0	0
教育活動収支差額	59,946	△70,440	130,386	翌年度繰越収支差額	△2,963,789	△2,521,342	△442,447
受取利息・配当金	47,610	43,519	4,091	(参考)			
その他の教育活動外収入	0	0	0	事業活動収入計	2,487,537	2,501,146	△13,609
教育活動外収入計	47,610	43,519	4,091	事業活動支出計	2,368,551	2,476,174	△107,623
借入金等利息	0	0	0				
その他の教育活動外支出	0	0	0				
教育活動外支出計	0	0	0				
教育活動外収支差額	47,610	43,519	4,091				
経常収支差額	107,556	△26,921	134,477				

資金収支計算書要約 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	平成30年度決算	平成29年度決算	増減	科目	平成30年度決算	平成29年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,027,040	2,016,350	10,690	人件費支出	1,296,922	1,270,653	26,269
手数料収入	41,802	44,361	△2,559	教育研究経費支出	502,193	524,159	△21,966
寄付金収入	24,738	3,320	21,418	管理経費支出	165,564	185,281	△19,717
補助金収入	306,268	331,967	△25,699	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	852,742	0	852,742	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	2,185	4,280	△2,095	施設関係支出	37,355	1,625,275	△1,587,920
受取利息・配当金収入	47,610	43,519	4,091	設備関係支出	77,797	103,987	△26,190
雑収入	26,434	49,781	△23,347	資産運用支出	600,000	300,003	299,997
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	536,829	151,649	385,180
前受金収入	371,312	349,410	21,902				0
その他の収入	46,080	38,154	7,926				0
資金収入調整勘定	△369,323	△378,862	9,539	資金支出調整勘定	△84,073	△536,015	451,942
前年度繰越支払資金	1,553,695	2,676,406	△1,122,711	翌年度繰越支払資金	1,797,995	1,553,695	244,300
収入の部合計	4,930,583	5,178,687	△248,104	支出の部合計	4,930,583	5,178,687	△248,104

貸借対照表要約 (平成31年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部				負債の部				純資産の部			
科目	平成30年度末	平成29年度末	増減	科目	平成30年度末	平成29年度末	増減	科目	平成30年度末	平成29年度末	増減
固定資産	8,109,703	8,633,023	△523,320	固定負債	161,869	156,338	5,531	基本金	12,222,819	11,661,386	561,433
有形固定資産	6,477,740	6,754,312	△276,572	預り保証金	150	0	150	第1号基本金	12,049,819	11,519,386	530,433
土地	1,504,743	1,503,884	859	退職給与引当金	161,719	156,338	5,381	第4号基本金	173,000	142,000	31,000
建物	3,900,360	4,136,426	△236,066	流動負債	508,898	934,651	△425,753	繰越収支差額	△2,963,789	△2,521,342	△442,447
その他の有形固定資産	1,072,637	1,114,001	△41,364	未払金	79,544	533,342	△453,798	翌年度繰越収支差額	△2,963,789	△2,521,342	△442,447
特定資産	170,000	170,000	0	前受金	371,312	349,410	21,902	純資産の部合計	9,259,030	9,140,045	118,985
その他の固定資産	1,461,962	1,708,711	△246,749	預り金	58,042	51,899	6,143	負債及び純資産の部合計	9,929,797	10,231,034	△301,237
流動資産	1,820,094	1,598,011	222,083	負債の部合計	670,767	1,090,989	△420,222				
現金預金	1,797,995	1,553,695	244,300								
その他の流動資産	22,100	44,316	△22,216								
資産の部合計	9,929,797	10,231,034	△301,237								

令和元年度予算報告

(法人経理課長 平緒泰弘)

学校法人銀杏学園の令和元年度予算は、令和元年5月29日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支予算書、資金収支予算書を掲載し報告いたします。

百万円増加します。これは人件費が前年度より19百万円増加し、教育研究経費や管理経費も新アリーナの減価償却開始により、それぞれ前年度より18百万円、6百万円増加するためです。

①事業活動収支予算書

令和元年度の経常収支差額は66百万円と収支均衡を達成しますが、前年度より41百万円減少します。

まず、事業活動収入は2,478百万円となり、前年度より8百万円減少します。これは、教育活動収入が前年度より9百万円増加するものの、教育外活動収入が資産運用の縮小に伴ない前年度より6百万円減少することなどによるものです。

一方で、事業活動支出は2,444百万円と、前年度より75

②資金収支予算書

令和元年度の翌年度繰越支払資金は1,627百万円となり、前年度繰越支払資金1,797百万円から170百万円減少することとなります。

これは、本年度が新レストラン等の建設初年度となり施設関係支出が前年度より435百万円増加することなどにより

事業活動収支予算書要約 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(単位:千円)

科 目		令和元年度予算	平成30年度決算	増 減	科 目		令和元年度予算	平成30年度決算	増 減
教育活動収支	事業活動収入の部	2,036,900	2,027,040	9,860	特別収支	資産売却差額	0	0	0
	学生生徒等納付金	49,950	41,802	8,148		その他の特別収入	0	11,460	△ 11,460
	手数料	16,000	24,738	△ 8,738		特別収入計	0	11,460	△ 11,460
	寄付金	300,232	306,268	△ 6,036		資産処分差額	1,530	31	1,499
	経常費等補助金	1,616	2,185	△ 569		その他の特別支出	0	0	0
	付随事業収入	32,958	26,434	6,524		特別支出計	1,530	31	1,499
	雑収入	2,437,656	2,428,466	9,190		特別収支差額	△ 1,530	11,430	△ 12,960
	教育活動収入計	1,321,958	1,302,303	19,655		[予 備 費]	30,000		30,000
	事業活動支出の部	887,516	868,545	18,971		基本金組入前当年度収支差額	34,558	118,986	△ 84,428
	人件費	203,094	196,372	6,722		基本金組入額合計	△ 571,364	△ 561,433	△ 9,931
教育研究経費	0	1,300	△ 1,300	当年度収支差額	△ 536,806	△ 442,447	△ 94,359		
管理経費	2,412,568	2,368,520	44,048	前年度繰越収支差額	△ 2,963,789	△ 2,521,342	△ 442,447		
徴収不能額等	25,088	59,946	△ 34,858	基本金取崩額	0	0	0		
教育活動支出計	△ 3,500,595	△ 2,963,789	△ 536,806	翌年度繰越収支差額	△ 3,500,595	△ 2,963,789	△ 536,806		
教育活動収支差額	41,000	47,610	△ 6,610	(参考)					
受取利息・配当金	41,000	47,610	△ 6,610	事業活動収入計	2,478,656	2,487,537	△ 8,881		
その他の教育活動外収入	0	0	0	事業活動支出計	2,444,098	2,368,551	75,547		
教育活動外収入計	41,000	47,610	△ 6,610						
借入金等利息	0	0	0						
その他の教育活動外支出	0	0	0						
教育活動外支出計	0	0	0						
教育活動外収支差額	41,000	47,610	△ 6,610						
経常収支差額	66,088	107,556	△ 41,468						

資金収支予算書要約 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科 目	令和元年度予算	平成30年度決算	増 減	科 目	令和元年度予算	平成30年度決算	増 減
学生生徒等納付金収入	2,036,900	2,027,040	9,860	人件費支出	1,321,958	1,296,922	25,036
手数料収入	49,950	41,802	8,148	教育研究経費支出	523,063	502,193	20,870
寄付金収入	16,000	24,738	△ 8,738	管理経費支出	168,559	165,564	2,995
補助金収入	300,232	306,268	△ 6,036	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	300,000	852,742	△ 552,742	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	1,616	2,185	△ 569	施設関係支出	472,380	37,355	435,025
受取利息・配当金収入	41,000	47,610	△ 6,610	設備関係支出	98,984	77,797	21,187
雑収入	32,958	26,434	6,524	資産運用支出	300,000	600,000	△ 300,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	104,044	536,829	△ 432,785
前受金収入	339,090	371,312	△ 32,222	[予 備 費]	30,000		30,000
その他の収入	19,913	46,080	△ 26,167	資金支出調整勘定	△ 103,487	△ 84,073	△ 19,414
資金収入調整勘定	△ 392,312	△ 369,323	△ 22,989	翌年度繰越支払資金	1,627,841	1,797,995	△ 170,154
前年度繰越支払資金	1,797,995	1,553,695	244,300	支出の部合計	4,543,341	4,930,583	△ 387,242
収入の部合計	4,543,341	4,930,583	△ 387,242				

目次

I 法人の概要

- 1 建学の精神、基本理念及びミッション
- 2 沿革
- 3 役員・評議員
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 入学定員及び学生数
- 6 教職員の概要
- 7 卒業生の概要

II-1 事業の概要（法人）

- 1 主な事業の内容
 - (1) 全体概要
 - (2) 主要課題と課題に対する取組み
- 2 関係する会議の開催実績

II-2 事業の概要（大学）

- 1 主な事業の内容
 - (1) 全体概要
 - (2) 教育活動
 - (3) 研究活動
 - (4) 地域・社会貢献活動
 - (5) 国際交流活動
 - (6) 自己点検・評価活動
 - (7) 施設設備の整備活用
 - (8) 業務運営に関すること
 - (9) その他
- 2 学生の動向
 - (1) 入学試験における志願等の状況
 - (2) 国家試験の合格状況
 - (3) 卒業生の進路状況

III 財務の概要

- 1 事業活動収支計算書（過去5年分）
- 2 貸借対照表（過去5年分）
- 3 財務比率（過去5年分）

II-1 事業の概要（法人）

1 主な事業の内容

(1) 全体概要

本年は、18歳人口減少が再加速を始めるという2018年問題の年度でした。また本学の設立母体であった一般財団法人化学及血清療法研究所の設置形態が大きく変化した年度でもありました。

この大きな転機に先立ち本学は、昨年度から経営企画部を創設し、新規に経営戦略会議を開催するなど、法人体制の構築を進めて自立自営の道を歩み始めました。

また計画等の策定に関しても、昨年度は「将来ビジョン」を策定し、今年度はそのアクションプランとして12年後（2030年度）を見据えた「第一次中長期計画」を策定しました。その中の一つである「（学生数に見合った）大学施設の整備」という課題においては、「旧アリーナを新レストランに、現レストランを図書館のアクティブスペースへと改造する」という選択を行い、実行の準備を始めています。

(2) 主要課題と課題に対する取組み

① 新学科・専攻等の開設

開学当初の本学の学生収容定員は800人（2003年度）

でありましたが、現在では保健科学部に3学科3専攻を有し、さらに大学院保健科学研究科、助産別科、キャリア教育研修センター認定看護師教育課程を併設して学生収容定員1,344人（2019年度）の規模にまで拡大しています。

それでも私立大学の経営環境は厳しく、本学のような中小規模の大学ほど、少子化による18歳人口減の影響を大きく受けています。

日本私立学校振興・共済事業団『2018年度私立大学の入学動向調査結果』によりますと、「私立大学の全体数の36%にのぼる210校が定員割れ」を起こしており、そのほとんどが中小規模大学です。特に「収容定員2400人（入学定員600人）未満の大学では、全大学を合計しても入学者充足率が99.7%」にとどまっています。この規模の層は、首都圏大学の定員厳格化の恩恵を受けて一時的に充足率悪化傾向がおさまっているものの、依然として「100%未満の未充足状態」が続いています。

そこで本学は、当面の学生規模を1,700人規模にまで増やすべく、新学科・専攻等の開設を検討しています。本年度は診療放射線学科を検討対象と選び、その施設規模や採算性の分析を行い、検討を継続することとしています。

② 学費の値上げ

本学の収入の主体は学費であり、定員や学費を変えない限り収入は毎年ほぼ一定です。その一方で支出は「人件費、減価償却費、設備修繕費の上昇」が予測され、「消費税率引き上げ」も計画されています。10年後20年後に向け、経営戦略実現のための資源確保も急務です。そこで、消費税率引き上げ（2019年10月）前後のタイミングに、安い学費水準を維持できる範囲内の学費値上げを検討してきました。

本年度は、「2019年度からの看護学科の学費（実習費/施設費）10万円値上げ」「2020年度からの全学科の学費（実習費）5万円値上げ」「2020年度からの助産別科（実習費/施設費）の15万円値上げ」を決定しました。

③ 人事給与制度の見直し

私立大学の経営環境が厳しくなるにつれ、本学の人件費比率も例にもれず50%を超えて増加傾向にあります。学校経営が安定する「事業収支比率10%」を達成するためには、人件費比率を50%程度に抑制できるかどうかが目安とされます（日本私立学校振興・共済事業団『私立学校の経営革新と経営困難への対応』2007年8月）。

しかし、単純な方法による一律な人件費抑制には教職員のモチベーション低下や人材流失というリスクも伴います。慎重な検討の上で、能力・職務・成果・役割に見合ったメリハリのある給与体系の構築が望ましいと言えます。

本年度は2月に人事課長方針を全教職員向けに提示し、教職員代表から「質問と詳細かつ建設的な御意見」を頂きました。これを踏まえ来年度に制度を見直します。

④ 大学施設の整備（旧アリーナ・レストラン改造計画）

本学においては、学生数が開学当初の800人規模から約2倍の1,500人超の規模となり、アリーナ、駐車場、レストラン、図書館などの収容能力が慢性的な不足状態にありました。そのうち、新アリーナおよび新駐車場については4月より稼働しましたが、その他の施設の収容能力不足を解消するため、旧アリーナを活用する方法について検討してきました。

本年度は、旧アリーナ跡地での新レストラン/新図書館等

の整備計画を進め、旧アリーナ転用工事に関しては2019年3月に戸田建設と契約を締結しました。これらは2021年2月に完成予定です。

⑤ コンビニエンスストアの誘致と学内ATMの設置

以前より学生・教職員からATMの学内設置と、従来の売店に対する不満（品揃え、サービス）からコンビニエンスストア開設の要望が挙がっていました。

本年度は、大手コンビニ「ローソン」の誘致に成功し、付設ATMの稼働を実現しました。またそれに引き続き、現金出納業務削減/キャッシュ取扱リスク低減を目指し、このATMを利用した教職員立替払の銀行振込化も開始しました。

⑥ 学生寮の設置

本学の学生募集においては、熊本はもとより九州・沖縄・山口全域から、学力レベルの高い志願者を質と量の両面で獲得することを狙いとしていますが、県外の志願者からは「学生寮はないのか」という質問を受けることも多く、学生寮を持たないことが、県外の学生募集活動において、学生寮を持つ他大学との競争に不利に働いていると考えられました。

本年度は、まず近隣の民間の二学生会館と提携を交わり、大学案内やホームページ等で紹介を始め、志願者/保護者へ向けて安全/安心な選択肢を確保しました。直営学生寮の設置についても、検討を継続することとし情報収集を続けています。

⑦ ユニバーシティ・アイデンティティ (UI) の構築

ユニバーシティ・アイデンティティとは、「大学がイメージの統一を図り、その組織の存在を人々に印象付けて組織の内外ともに活性化を図るための行為」です。本学の特徴や個性、そして今後目指すべき大学像を学生・教職員が一体となって認識し、社会へと訴求していくことによって、本学の「社会に貢献できる医療技術者を養成する大学」というミッションをブランドイメージとして確立し、さらに高めていくことで、社会に広く認知されることを目指してきました。まずは、ビジュアル・アイデンティティ (VI) を中心に、シンボルやデザインによって統一性や計画的多様性を持たせることで、ブランディングの一環として、大学イメージの形成を図ってきました。

本年度は、本学のロゴ、スクールカラー等を制定し、ばらつきを防ぐためにそれを規定化しました。またそれ以外にも「キャンパス紹介写真」「名刺デザイン」「パワーポイント台紙」などの本学の視認性/認知度向上に役立つ事項を種々決定しました。

⑧ 国際化への対応

昨年度策定した将来ビジョンにおいて、「10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化」を掲げており、さらにそれを具体化したビジョンの一つとして「海外の大学等との連携充実による発展と学生・教職員の国際力の強化」を挙げています。そこで、これらのビジョンを実現するための国際化に注力する基礎づくりとして、①大学ホームページの英語版の制作、②大学紹介ムービー英語版の制作、③3か国語（英語、韓国語、中国語）表記の大学リーフレットの制作、④海外から本学を訪問された賓客への贈答品または海外大学への土産品（大学ロゴの入ったもの）の作製、などを検討してきました。

本年度はまず、英語版ホームページを作成し公開を開始しました。

⑨ 収益事業の実施

一部の有名ブランド大学を除いては、今後、各学校法人は極めて厳しい経営環境となることが想定されます。また、国

家財政状況の悪化に伴う補助金の減少で、補助金収入に依存しない財務基盤の強化が必要です。その取り組みの一つとして、収益事業を実施することを検討してきました。

本年度の検討では、現状の本学資産活用だけでは大きな収益は望めないという中間試算に至り、収益以外の面でもメリットがある小規模、医療系事業を軸に検討しています。

⑩ 提携病院の開拓

保健医療系大学にとって病院は最も重要な施設であり、病院と提携する、あるいは附属病院を持つことは大きな意味を持ちます。九州内の同系統私立大学においても、「提携している」や「附属病院を持っている または 設立母体が病院」という大学が少なからず存在しています。そこで、本学においても、提携病院の開拓や附属病院の設置を検討してきました。提携病院を開拓する、または附属病院を設置することができれば、実習病院や就職先を開拓する必要性に迫られている現状を緩和することが可能になります。

本年度は済生会熊本病院、熊本機能病院、くまもと南部広域病院と連携契約を締結し、報道機関へ公表しました。また、締結以降も連携推進会議を開催して連携事項の具体化を進めています。

⑪ 研究力の強化（大学院の活性化）

本学は開学以来、学生の高い国家試験合格率と希望に沿った就職実績を誇り、この「教育力・支援力」が本学最大の特色とされてきました。その一方で本学の「研究力」は、近年の保健医療の高度化等に十分対応できているとは言えません。「研究力」の長期的効果として獲得される「ブランド力」は、本学の志願者増や補助金獲得など目に見える形で結実することが期待されます。

本年度は、経営戦略会議の下にワーキンググループを設置して検討し、その議論の上に、優秀な本学学部学生を対象に、非社会人院生の学費無償化(95%免除)を制度化しました。また、大学院を持たない韓国大邱保健大学等を訪問し、優秀な卒業生の紹介を依頼しました。

⑫ 他大学との連携

他大学同様、本学においても残念ながら留年者・退学者が毎年生まれています。前向きな留年/中退というものも存在するかもしれませんが、今まで納めてきた多額の学費のことも一つを考えても、「本学は何か他にできることが無かったのか」を自問させられる問題です。「本学内で対応できない進路変更」を望む学生の問題には、近隣他大学との協力で解決できればそれが最善であり、学生の利益と、本学の實力強化という一石二鳥です。

本年度は熊本学園大学との間で包括連携協定を締結し、報道機関へ公表しました。この協定に基づき、相互転入学制度を実現する予定です。

⑬ 講座制に関する検討

いわゆる「大学における講座制」に関しては、閉鎖的というような否定的イメージで語られることも多いですが、「研究力」の次世代への継承という点からみるとメリットも多々あります。

本年度は、経営戦略会議の下にワーキンググループを設置して検討し、「教員意識調査」「授業評価&研究業績データ」「職位別意見交換会」の3つの調査/会合で得られた現状把握に基づき、教員組織案を提示するに至りました。

⑭ 寄附金の獲得

収入構造の多様化の一環として、寄付金募集活動の展開を

目指してきました。

本年度は寄付を行う方々のメリットを目的として「税率控除法人」へ移行しました。次の段階としては、更にメリットの大きい「税額控除化法人」への将来の昇格を目指して、種々の寄付金拡大策を模索しました。

⑮ 財務の適正化

本学の財務は差し迫った状況にはありませんが、毎年の収支をみると年々悪化傾向にあります。この傾向に歯止めを打つための方策を検討してきました。

本年度は本学の目標を、「教育研究経費比率 60%（教員人件費含み減価償却費含まず、経常収入比）」、「管理経費比率 20%（職員人件費含み減価償却費含まず、経常収入比）」とすることに決めました。これを 12 年間の対象期間中に実現することを目指して、財務計数を重視した中長期計画を策定しました。

⑯ 奨学金制度の検討

本学では従来から運用してきた熊保大奨学金制度は、一般入試の成績及び家計の経済状況を選考基準にしており、選考は入学後に行っています。

一方、他大学では、「入試の成績のみ」「家計の経済状況のみ」を選考条件とする制度や、「特定の地域の出身者」を対象とした制度など、各々の大学の募集戦略に基づく奨学金及び学費減免制度を運用するところも少なくありません。更には入学前に学費減免を約束することで学生募集を有利に展開している大学もあります。このような状況を分析しながら、本学においても新奨学金制度創設を検討してきました。

本年度は、2020 年度以降の入試前予約型奨学金制度を新設しました。今後の優秀な受験生の獲得が期待されるところです。

⑰ 中長期計画の策定

本学が中期目標・計画策定用として従来使用してきた国立大学の記入様式は、本学の置かれている立場と、国立大学の置かれている立場の違いに起因する不便がありました。またその記入内容も、目標は列挙するものの、その「達成度基準と達成期限」については欠落していました。更に、「従来 4 年間で対象としてきた本学の計画期間」の方でも、「5 年以上の中長期計画の策定」が求められることとなりました（文部科学省通達「学校法人制度の改善方策において」2019 年 1 月）。

本年度は、従来の中期目標・計画に代えて 12 年（4 年×3 回）へ拡大した第一次中長期計画を策定しました。「経営戦略や財務数値を重視する、広く使われている計画様式への変更」と「目標に対する、達成度基準と達成期限の明確化」が特徴です。

⑱ ブランドコンセプト&タグラインの策定

「ブランドコンセプト」とは大学の使命（ミッション）、将来像（ビジョン）、価値観・行動指針（バリュー）などから導き出される「大学を象徴する顔」または「ありたい姿」のことで、他大学にはない長期的な価値や優位性を、唯一無二のものとして共感してもらうことを目的としています。また、「タグライン」とは、ブランドコンセプトを一文に集約した広報の方向性となるもので、タグラインを用いることで、一貫した広報活動を行うことが可能になります。

本年度はブランドコンセプトを策定、それに続きタグライン（『生きる』をひらく かけがえのない一人に）を策定して使用を開始しました。

⑲ 大学紹介ムービーの制作

近年はマスメディアの主役が、新聞/雑誌/テレビからイ

ンターネットへ交代しています。

本年度はこのような時代のニーズの変化に合わせて、従来のマスメディア広告を縮小する一方、質の高い大学紹介ムービーを製作し公開を開始しました。これにより、受験生等は本学の充実した設備/教育内容を生で感じ取れる動画映像を（テレビのような視聴地域の制限もなく）スマートフォン等でいつでもどこでも視聴できることになり、本学にとっても競合他大学との差別化に役立つものと期待されます。

2 関係する会議の開催実績

理事会（評議員会）…5/30,9/19,11/28,3/13

理事長報告会（常任理事協議会）…7/23,1/21

理事長報告会…5/21,9/10,11/19,3/5

経営戦略会議…4/19,5/17,6/22,7/28,8/28,9/28,10/29,11/30,12/21,1/28,2/25,3/29

経営戦略会議は、月一回の定例会での報告/審議に加え、適宜ワーキンググループを設置して逐次報告を受けています。

II-2 事業の概要（大学）

1 主な事業の内容

(1) 全体概要

2018(平成 30) 年度は、教育改革推進会議の下で進められてきた各種教育改革・入学試験改革の成果が示され、一つの節目を迎えました。特に、これまで本学の各部署が個々に行っていた取組みに新たな肉付けをし、時代の一步先を行く「アセスメントプラン」を構築できたことにより、今後の取組みに対する大きな指標とすることができるようになりました。また、学生の到達度を可視化するための「修学ポートフォリオ」の試行的導入を行い、システムのさらなるカスタマイズを行うことにより、2019 年度の全学的な導入につなげることができました。

また、従来の「学生相談室」と「障害学生支援室」の機能を統合し、学修に様々な困難を伴うすべての学生に対する相談と支援・指導機能の両面を担う「学生相談・修学サポートセンター」を設置し、より組織的に学生を支援することが可能となりました。

(2) 教育活動

① カリキュラム等の改善及び再編

- ・大学間連携共同教育事業の一環として保健科学基幹科目「災害時における保健医療」を開講し、本学学生 303 名が履修しました。
- ・新カリキュラムについても、これまでと同様に科目ナンバリングを付与するとともにカリキュラムマップを作成しました。
- ・各学科・専攻において、卒業研究、学外実習、課題レポートについて、ルーブリック評価（観点別の達成度評価）法を導入しました。

② 学修支援の充実

- ・先輩ピア・サポーター（実働 93 名）による時期に応じた質問や相談を実施しました。また、1 年生プチ・サポーター（実働 36 名）も活用しました。
- ・キャンパステラスを利用した学修相談室（スタディ・サポート・カフェ）を開室しました。前期 27 回（来室者 39 名）、後期 25 回（来室者 25 名）
- ・「学生相談・修学サポートセンター」を稼働し、合理的配慮の実現に努め、聴覚障害者用の補聴援助システムを導入

するほか、高大連携の取組みも拡大しました。

- ・学生自らが選書に参加する選書ツアーを2回実施し、合計316冊を選書しました。また、「私の部屋でランチを」(9回)に加え、「サイエンスカフェ」(3回)を実施しました。
- ・キャンパステラスの開室時間を11月から2月の間、2時間延長しました。

③ キャリア支援の整備・充実

- ・医療機関によるキャリア教育セミナー及び合同就職説明会を実施しました。
看護学科88施設、リハ学科78施設、言語聴覚学専攻13施設
- ・全学科において、就勝セミナーを実施しました。

④ FD活動の充実

- ・FDセミナーを以下の通り実施しました。
9月「新しい時代の大学教育をめざして」講師：九州工業大学 菊池 悌一郎氏
3月「新しい時代の大学教育をめざして」講師：臨床心理士 岡崎 光洋氏
- ・アクティブラーニング・ワークショップ(6月、3月)を実施するとともに、本学での実践報告集を全教員に配付し、その効果や課題を共有しました。
- ・学生による「授業改善アンケート」とその結果を踏まえた教員による「授業改善計画」を、学内用電子掲示板で教職員と学生に開示しました。

⑤ 学友会活動等の支援

- ・以下に挙げるような学友会の活動を支援しました。
球技大会(6月：ボウリング大会)、杏祭(10月)、リーダーズ研修(3月)
シーズンプロジェクト(7月「七夕」、12月「クリスマス」)
西里駅清掃(毎月1回土曜日実施、雨天等の中止3回、延べ472名参加)

(3) 研究活動

① 研究成果の評価

- ・学内研究助成・研究成果報告会(3月20日ポスター発表)の開催(39件)
- ・平成29年度学内研究助成報告集の発行(8月)
- ・研究業績管理システムの導入
- ・研究シーズ集の公開
- ・熊本保健科学大学研究誌第15号を学術情報リポジトリにてWeb公開

② 若手研究者等への研究支援

- ・科研費書き方講習会の開催(8月)
- ・学外臨床研修 医検 野中喜久講師(熊本大学医学部附属病院)
平成30年4月1日～平成31年3月31日

③ 外部研究資金等の獲得

- ・平成30年度文科省科研費
新規7件採択(申請36件、採択率19.4%)、
異動1件、継続4件、補助期間延長2件
- ・平成31年度文科省科研費申請35件(前年度36件)
(うち平成31年4月採択の申請件数29件中、7件の採択決定通知)
※挑戦的研究(6件)は7月に内定通知が出る予定
- ・5件の共同研究実施
(ラッキー工業(株)、ヤフー(株)、(株)バスクリン、協和メテックス(株)、他1件)

④ 学術的集会の開催

- ・学術講演会の開催(2月12日)
「地域ネットワークを活用した薬剤耐性菌(AMR)対策と感染対策への取り組み」
講師：佐竹幸子(NPO法人EBIC研究会 理事長)

⑤ 熊本保健科学大学研究誌第16号の発行

- ・投稿数18件、採択数15件(総説1件、原著7件、研究報告2件、その他5件)

(4) 地域・社会貢献活動

① 地域団体の各種イベントで、本学の特性を活かした健康・体力測定等を実施

- ・フードパル熊本主催「花と食の祭典(5月)」396名参加
「フードパルフェスタ(11月)」215名参加
- ・「ふれあいフェスタ in ほくぶ(11月)」203名参加
- ・城北校区秋祭り「ふれあいの日(10月)」220名参加
- ・西里校区「健康ウォーキング大会(3月)」健康チェック・体操等99名

② MUSASHI会「市民の健康生活を考える会」(12月3日)

- ・崇城大学、寿量会熊本機能病院と共同開催(平成30年度幹事校：熊本機能病院)
「市民公開講座」講演とアトラクション 参加者120名(うち本学関係30名)

③ 西里校区「井芹川大清掃」への参加(11月)：学生64名、教職員16名

④ 西里校区グラウンドゴルフ大会の実施 5月(169名参加)、11月(167名参加)

(5) 国際交流活動

① 大邱保健大学(韓国)

- ・Global Student Leadership Programに本学学生4名(医検2名、看護2名)を派遣(8月9日～18日)
- ・交換研修生として本学学生7名(医検2名、看護2名、リハ3名)を派遣(9月7日～20日)
- ・大邱保健大学学生7名(医検2名、看護2名、リハ3名)の受入れ(7月1日～14日)

② コンケン大学(タイ)

- ・交換研修生として本学学生7名(医検2名、看護2名、リハ3名)を派遣(9月7日～20日)
- ・コンケン大学の学生4名(医検2名、看護2名)の受入れ(6月1日～14日)
- ・コンケン大学の学生2名(リハ2名)の受入れ(7月1日～14日)
- ・コンケン大学看護学部とのMOUを更新

③ 国際シンポジウム(7月)への参加

- ・参加・発表者：教員2名、職員1名

④ 熊保大海外留学プログラムへの学生派遣

- ・米国イリノイ州での滞在・現地の病院訪問等(3月3日～30日)
- ・参加学生20名(医検4名、看護6名、リハ10名)

(6) 自己点検・評価活動

① 平成30年度自己点検・評価報告書の作成

- ・作成(7月)、理事会提出(9月)、ホームページ公開(9月)
- ・改善の実質化のため、基準ごとの点検項目を関連部署に周知

② 第3期大学機関別認証評価受審の体制整備

- ・受審年度：令和2年度(2020年度)

- ・リエゾンオフィス等の立上げ

(7) 施設設備の整備活用

- ① 空調機の性能維持管理
 - ・吸収式冷温水機（4号機）の定期整備（325万円）
 - ・8/3完了
- ② グラウンド整備
 - ・暗渠の設置と表土の入替え（866万円、うち400万円は後援会からの援助）
 - ・9/2完了
- ③ 2号館雨樋補修
 - ・経年劣化による漏水対応（211万円）
 - ・9/21完了
- ④ 1300L 講義室視聴覚機器更新
 - ・老朽化による画質・音質悪化のための更新（299万円）
 - ・9/14完了
- ⑤ 2号館外壁剥離対応
 - ・外壁の成型板のふくらみによるクラック補修（707万円）
 - ・3/25完了
- ⑥ 1303 講義室 M天井垂れ下がり対応
 - ・地震の影響と思われる天井の垂れ下がり補修（104万円）
 - ・3/25完了
- ⑦ 図書館関連
 - ・図書館の利用状況は、以下の通りでした。
 - ※年間の開館日数は268日（前年266日）
 - ※入館者数79,703人（前年89,022人）
 - ※学生への貸出冊数14,869冊（前年18,369冊）
 - ・国家試験支援のため、休日特別開館を実施（2月の土日祝日6日間）し、1,469人が来館しました（前年6日間1,256人）。
 - ・研究支援として、Science Direct、naturePPV 論文数追加の契約を行いました。

(8) 業務運営に関すること

- a) 大学運営協議会、教授会、学術研究会議が適切に役割分担を行い、円滑な大学運営を図りました。
- ① 大学運営協議会（定例11回開催）で審議・報告された主な事項は、次の通りです。
 - 1) 学則、その他の学内諸規程の制定、改定
 - 2) 事業報告・事業計画、中長期計画
 - 3) 決算、予算
 - 4) ブランドコンセプト、タグライン
 - 5) 補助金事業申請への対応
 - 6) 自己点検・評価への対応
 - 7) 海外留学プログラム
 - 8) 他大学等との連携 など
- ② 教授会（定例11回、臨時4回開催）で審議・報告された主な事項は、次の通りです。
 - 1) 入学試験日程及び合格判定（指定校・一般推薦、一般、センター前期・後期）
 - 2) 卒業認定、進級判定、保健師選択学生の選考、単位認定（TOEICなど）
 - 3) 学生の各種表彰
 - 4) 科目等履修及び学籍異動
 - 5) 授業暦
 - 6) カリキュラム変更、学内諸規程の制定・改定
 - 7) 大学運営協議会報告、各委員会報告 など
- ③ 学術研究会議（定例5回、臨時7回開催）で審議・報告さ

れた主な事項は、次の通りです。

- 1) 学内研究助成の募集に関する検討、申請の審査・採択
 - 2) 学外との共同研究、寄付金の受入
 - 3) 学術講演会の開催及び報告
 - 4) 研究員の受入・更新、諸規程の改定
 - 5) 学位取得の支援
 - 6) 研究シーズ集の作成 など
- b) 教職員の人事評価制度の適正な運用を図りました。
- ① 教員については、平成30年4月から平成31年3月までの自己評価について、新規教員への説明会を実施しました。自己評価を基に教員評価を実施し、平成31年4月給与から処遇へ反映させます。
 - ② 職員については、平成29年10月から平成30年9月までの一年間の評価を、平成31年4月の昇給に実処遇反映させます。

(9) その他

- ① 法令等に基づいた的確な情報公開の実施
 - ・事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録、監事による監査報告書を事務所に備え置くとともに、『学園通信ぎんきょう』、学内LAN、ホームページを通じて学内外に公開しました。
- ② 九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク（Q-Links）賛同校としての活動
 - ・Q-conference2018（九州大学）に本学から職員5名及び学生1名が参加しました（12月22日）。
 - ・Q-Links 賛同校等に本学のセミナー等への参加を呼びかけ、2つのセミナー等に学外から延べ20名の方に参加していただきました。
- ③ 地域包括連携医療教育研究センターでの主な取組
 - ・センター主催の講演会・研修会を6回実施、延べ200名以上が参加しました。
 - 10月「聞き書きフォローアップ講座」
 - 1月「Let's look for Inside Out Solutions!」、「プレイバックシアター」
 - 2月「聞き書き研修会」
 - 3月「センター報告会」、「プレイバックシアター」、「健康と科学の夕べ」
- ④ アカデミックスキルラボでの主な取組
 - ・アカデミックスキルⅠ・Ⅱに係るライティング及びプレゼンテーション指導プログラムを構築しました。
 - ・正課外のサポートアワー（昼休み、放課後）で学習サポートを行い、利用者は延べ1,607名に上りました（実数は約120名）。
- ⑤ 大学コンソーシアム熊本の本各部会・委員会への参画
 - ・大学コンソーシアム熊本によるプラットフォームの形成に際し、中心となる3大学（熊本学園大、崇城大、本学）の一つとして積極的に関与し、補助金の獲得に寄与しました。

2019年度事業計画

本学の基本理念・教育目標を達成するため、2019年度事業計画を策定した。

18歳人口の減少期に突入り、大学を取り巻く環境は厳しさを増しており、大学の教育改革・経営改革への継続的な努力なしには今後の成長は望めない。そのような中、本学では「保健医療分野の教育と研究を通して社会に貢献できる医療技術者を養成する」というミッションの下、「保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる」ために、教職員一体となり、たゆまぬ活動を展開していく必要がある。

本年度は新たな中長期計画の初年度として、以下の重点目標を念頭に置いたうえで、教育研究の質の向上と経営の安定化をさらに推進する。また今年度は、教学組織の陣容に大きな変化があるので、新体制へスムーズに移行しながら着実に事業を進めていく。

重点目標

1 教育・研究の質の向上及び学生支援の推進

- ①教育改革推進会議主導による教育改革の発展的継続
- ②eラーニングの拡充等による大学院の充実と活性化
- ③外部資金獲得等による研究の質向上及び研究シーズ集の充実
- ④学生の到達度に見える化と評価の実現に向けての修学ポートフォリオの本格的な運用
- ⑤教職協働による正課外活動を含めた学生の主体的活動や国家試験対策・就職支援の推進と強化
- ⑥新設必修科目「アカデミックスキル」を通じた学生の基本的リテラシー等の養成及び客観的臨床能力試験（OSCE）の導入
- ⑦企業からの寄付講座及び関連する研究センター設置の検討

2 入学者の安定的確保

- ①リハ学科に重点を置いた志願者・入学者の安定的な確保と質の向上
- ②新たなルールに基づく本学入試制度の改善（総合型選抜の導入準備）と外部への公表
- ③大学院の志願者・入学者の安定的な確保と質の向上

3 地域の中核を担う大学としての機能強化

- ①健康・体力測定等の地域連携活動を通じた社会貢献の充実
- ②医療専門職の生涯学習の拠点としての機能の充実
- ③地域包括連携医療教育研究センターを中心とした地域の教育研究拠点としての機能の充実と発信

4 自己点検・評価の充実

- ①新たな中長期計画に基づいた事業の展開及び第3期大学機関別認証評価に向けたリエゾンオフィスの始動
- ②アセスメントポリシーに基づく3ポリシー（DP・CP・AP）の達成度評価

5 学長のリーダーシップによる大学のガバナンス強化

- ①IRによるマネジメント体制の強化
- ②危機管理体制の強化及び利益相反マネジメントの継続
- ③より適正な教員人事評価制度への改善

6 大学の安定的運営の促進

- ①教育研究活動を充実するための適正な人件費比率の達成
- ②将来計画に向けた継続的調査・研究及び実現に向けた取組の推進
- ③既存アリーナの活用とキャンパス整備の確実な遂行

1 基本理念・教育目標

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、「①保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行い、②人間と社会に深い洞察力を持ち、③高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献でき、④豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材を育成する」との基本理念を達成するために、次の教育目標を掲げている。

- (1) 生命の尊厳と社会について洞察力を有し、自立できる人材を育てる
- (2) 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
- (3) 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
- (4) 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

以上の基本理念・教育目標を周知するため、学生便覧、ホームページ、大学案内などで文字による開示を徹底するとともに、オリエンテーションや各種学内行事を通じて対面形式での開示も実施する。

2 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果

- ①中教審答申や機関別認証評価の新基準に応じた教育の点検及び改善を行う。
- ②アセスメントポリシーに基づき、3ポリシーの達成度評価を確実に実施する。
- ③学生の主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を全学的に推進し、質向上を図るためのワークショップや相互授業参観（ピアレビュー）を実施する。
- ④学生のパフォーマンスを評価するためにルーブリック評価の活用を拡げる。
- ⑤学務システムを活用し、修学ポートフォリオの本格的な運用を開始する。
- ⑥カリキュラムマップ・履修系統図及び授業科目のナンバリングを作成・公開し、教育課程の可視化を推進する。
- ⑦シラバスに科目の到達目標ごとの評価手段と評価比率を明示し、学生に公表する。
- ⑧教育目標達成の要件でもある、専門分野に関連する資格・国家試験合格率、専門職就業率などの分析により、必要に応じて教育体制の強化を進める。

(2) 教育内容等

- ①新たなルールに基づく入試に向けて、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を見直し、総合型選抜の導入準備を具体的に進める。
- ②新設必修科目である「アカデミックスキル」を通して、学生の基本的リテラシー、コミュニケーション力等の養成を進める。
- ③リハ学科の実習において、クリニカルクラークシップを基盤に置いた系統的な臨床実習を推進するとともに、客観的臨床能力試験（OSCE）の導入を検討する。
- ④大学院の教育において、eラーニングの充実を図る。

(3) 教育の実施体制

- 1) 全学的な教学マネジメント体制を整備するための具体的方策
 - ①学長をトップとする教育改革推進会議を発展的に運営する。
 - ②教育改革推進会議の下にカリキュラム改革委員会、教育方

法改革委員会及び入学試験改革委員会を置き、改革を引き続き推進する。

2) FD 活動の充実に関する具体的方策

- ① FD 授業改善アンケートの結果を踏まえて、授業ごとの改善策を公開する。
- ② FD セミナーを開催するとともに、崇城大学との連携 FD 交流も充実させて、教育に関するテーマの討議や外部の関連講師の講演などにより授業の質を高める。
- ③ 他大学（大学コンソーシアム熊本、崇城大学、熊本学園大学）との連携・協働を進める。

3) その他

- ① 修学ポートフォリオの運用を通して、学生の修学・生活指導に関わる支援体制を整備する。
- ② 地域包括連携医療教育研究センターの機能を充実し、外部に向けて発信する。
- ③ 新認定看護師教育制度移行に向けて、本学教職員で構成されるプロジェクトチームを結成する。

(4) 学生への支援

1) 学生の学修環境や学修相談の支援体制の整備・充実等に関する具体的方策

- ① スモールグループ（SG）担任制度をより良いものとするため、ワーキンググループでの議論を深めて、現状把握及び今後の在り方について検討する。
- ② テーマ特化型や相談窓口型の学修相談室（スタディ・サポート・カフェ）の実施により、多様な学生へのサポート体制を充実させる。
- ③ 学生用パソコンや e ラーニング環境など、自立的学習の場を整備するとともに、ラーニング・コモンズを更に充実させ、効果的な運用を目指す。
- ④ 「学生相談・修学サポートセンター」を中心として、SG 担任と情報を共有しながら合理的配慮を基本とした支援体制を充実させる。

2) 学生の心身両面のケアを含めた健康管理・相談体制の充実等に関する具体的方策

- ① 保健室、学生相談・修学サポートセンターを中心に、SG 担任、学務課等による生活相談・指導体制を充実させる。
- ② ハラスメント防止対策のための相談、広報、講演会等を継続的に実施する。
- ③ 実験・実習等における危険物取扱いについての安全衛生・健康教育を充実し、危険防止や健康障害防止に努めるとともに、職場環境測定も実施する。
- ④ キャンパスの安全確保のため学内巡視やキャンパス内のバリアフリー化点検を実施するとともに、熊本地震を教訓とした災害対策のための防災訓練を実施する。

3) 就職支援体制の整備・充実に関する具体的方策

- ① SG 担任と就職支援課とが協力し、学生への個別指導体制を強化する。
- ② キャリアガイダンスの大略を審議し、学生の満足いく就職活動を支援する。
- ③ 医療機関との連携を強化し、良質な就職先の確保に努める。

(5) 社会との連携、国際交流等

1) 社会的活動への取り組みの推進を実現させるための具体的方策

地域連携活動や各種ボランティア活動をプログラム化するとともに、学生のボランティア活動を奨励し、学生の成長を支援する。

2) 学生の社会活動の推進を実現させるための具体的方策

- ① 「熊保大クラブ活動振興宣言」に基づき、部・クラブ活動等を支援する。
- ② ピア・サポーター等として大学の事業に学生を参加させる

ことの教育的側面を考慮して、事業別に具体的な方策を検討し、積極的に実施する。

3) 国際交流に関する活動

- ① 大邱保健大学（韓国）、コンケン大学（タイ）を中心に、学術交流や学生・教員間の人的交流の充実を図る。
- ② 米国短期留学（4 週間）の中で、ノーザンイリノイ大学の施設見学や各国大学の学生との交流を行い、外国文化の理解や英語力の向上を図る。

4) 減災型の地域社会を目指したシステムの構築

- ① 災害時福祉避難所としての大学施設機能の充実を図る。
- ② 保健科学基幹科目である「災害時における保健医療」を中心に防災型社会の教育・研究を試みる。

(6) 学術情報基盤

1) 図書館の情報システム拡充と学修・教育・研究支援のための具体的方策

- ① 電子書籍・電子資料を充実させるとともに、アクセスのシームレス化を図る。
- ② 学術情報システムの利用度に応じた整備と本学学術情報リポジトリの運用管理を実施する。
- ③ SNS と図書館キャラクターを活用し、図書館利用促進につなげる。

2) 学内システムの更新や保守・管理について、計画的に実行する。

3 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 研究意欲の活性化

- 1) 円滑かつ効果的な研究費の配分
 - ① 教育研究プログラム・拠点研究プロジェクトの審査法についての検証
 - ② 研究進捗管理の充実（研究成果報告内容の見直しと充実）
- 2) 研究成果の評価法の改善と検証及び制度の見直し
 - ① 研究成果発表会の実施方法の検証と改善
 - ② 学内研究助成・研究報告会の実施、学内研究助成報告集の発行

(2) 若手研究者の育成

- ① 研究設備等の研究環境の充実（アンケート方式による若手教員の意見の聴取）
- ② 海外研修・国際会議発表の促進
- ③ 若手研究者の学内外研究ネットワークの形成支援
- ④ 学位取得支援制度の実施、検証と改善
- ⑤ サイエンスカフェの実施

(3) 外部研究資金の獲得

- ① 学外研究費募集の公表と周知（科研費他、外部資金）
- ② 科研費等採択者による講習会の開催
- ③ 科研費等申請書の書き方コンサルテーション制度の充実

(4) 研究成果の社会への還元

- ① 研究成果の学術専門誌、国際・国内学会などへの公表推進
- ② 熊本保健科学大学研究誌への掲載数の増加と質の向上
- ③ 「研究シーズ集」の公開と更新、HP 等への掲載促進

(5) 研究環境の整備・その他

- ① 企業からの寄付講座及び関連する研究センター設置の検討
- ② 研究不正防止・研究費不正使用防止に関する研修会の開催（e ラーニングの活用）
- ③ 利益相反に関する学内調査の実施とセミナーの開催
- ④ 本学の研究活性化に資する講演会の開催

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- 1) 学生のための教育・研究の質の向上や学生支援
 - ① 修学ポートフォリオの本格的な運用
 - ② 学修に困難を伴う学生に対する合理的配慮の実施
 - ③ クリニカルクラークシップ制導入の支援、リハ学科メイン実習施設候補選定
- 2) 就職決定率 100%へ向けた就職支援とキャリア教育の推進
 - ① 職域拡大のための各種説明会の開催や病院訪問
 - ② SG 教員との密な連携による、標準化した就職指導による学生支援
 - ③ テーラーメイド就職支援の継続（4年生全員面談の実施）
 - ④ 学長による就職先訪問とヒアリング、在職調査の実施
- 3) マーケティング戦略の導入による志願者数増と質の維持・向上
 - ① OT・ST 専攻及び大学院に重点を置いた志願者・入学者の安定的な確保と全学科における質の維持・向上
 - ② 高校訪問・進学ガイダンス・出前授業等、足で稼ぐ広報の実施
 - ③ 効果的なコンテンツを活用したタイムリーな情報発信
 - ④ 将来計画に向けた継続的調査・研究及び実現に向けた取り組みの推進
- 4) 施設設備の拡充計画の立案・運用
 - ① キャンパス拡張に伴う既存施設の活用
 - ② 校舎内外の景観及び環境の整備と設備・機器等の老朽化への対応
 - ③ エコ活動の推進と防犯・防災管理の強化、危機管理対応の推進
- 5) 地域貢献と国際交流
 - ① 健康・体力測定をはじめとした地域貢献の継続
 - ② 医療専門職の生涯学習の拠点としての機能の充実
 - ③ 交流協定に基づいた韓国の大邱保健大学・タイのコンケン大学との交流の継続
 - ④ 米国短期留学のさらなる充実

(2) 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

- ① 教職員評価結果の処遇への反映方法の改善
- ② 職員適正配置の確実な遂行
- ③ 学内 SD 研修の実施と新入職員研修の充実

5 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

文部科学省特別補助、科研費、受託研究費、共同研究費、奨励寄付金等を対象とし、学内の広報・啓発活動を行い、外部競争資金の積極的な導入についての仕組み作りを推進する。また、寄付金収入を増やすため、「熊保大夢基金」の運用を開始する。

(2) 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ① 新しい財務指標として、広義の「教育研究経費」と「管理経費」の概念を設け、「減価償却費」と「経常収支差額」を合わせた4つの大区分で経常収支全体を管理し、これらに「人件費」も含めた5つの指標を適正な水準にコントロールすることで、持続的な財政の健全化を図る。
- ② 新たな中長期財務計画の収支シミュレーションに沿った財務運営を実施する。
- ③ 予算管理システムに則った予算／実績、収支差額の進捗管理を行い、経費の抑制と効率化を図る。

④ 学校法人会計基準他の関係法規に準拠し、三様監査（監査法人監査、監事監査、内部監査）に的確に対応できる、適切な会計処理を実施する。

(3) 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

- ① 安全性に配慮した資金運用を前提としつつ、金融利息・配当金確保を目指す。また、大型投資の支払時期・金額を把握し、運用期間を適切に設定する。
- ② 運用規程の整備、役割分担の明確化、報告体制の確立、内部牽制機能の強化により、最優先すべき安全性を担保する。

6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 評価の充実に関する目標を達成するための措置

- ① 第3期大学機関別認証評価の受審へ向けてリエゾンオフィスを始動させ、毎年度作成している自己点検・評価報告書の内容を新たな基準に沿って整理する。
- ② 新たな中長期計画に基づいた事業の展開に関する進捗評価を実施するとともに、内外の環境変化等を踏まえて必要なローリングを実施し、中長期計画の妥当性・実効性を確保する。

(2) 情報公開・社会貢献などの推進に関する目標を達成するための措置

- ① 法令に基づき、教育研究業績、事業計画・事業報告、財務諸表、自己点検評価書等について、学園通信、ホームページ等により、積極的な公開を推進する。
- ② 地域貢献の観点から、新しいアリーナを含めた大学施設の開放を積極的に実施する。

7 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

(1) 施設設備の整備活用に関する目標を達成するための措置

- ① 太陽光発電システムを適切に運用する。
- ② 大学の不動産管理、動産管理、熱力用水管理など、本学の総務に関する運営管理を的確に実施する。また、種々の不具合発生に対し、教育・研究に影響を与えないよう迅速かつ的確に対応する。

(2) その他の目標を達成するための措置

- ① 連携協定を締結した病院との間で、学術上及び教育上の連携を推進する。
- ② 連携協定を締結した病院に、本学大学院への社会人入学を広報する。

(3) 教育機関・自治体・産業界等を含めたプラットフォームの形成への参画

大学コンソーシアム熊本に加盟する高等教育機関、自治体（熊本県・熊本市）及び産業界とで形成するプラットフォームに積極的に参画し、その基本方針のもとで実施される各種委員会に本学からも委員を派遣するとともに、各種取組に対して、大学コンソーシアム熊本が設定した目標値を達成できるように主体的に関与する。

以上

国際交流

コンケン大学交換研修生

令和元年6月1日(土)から15日(土)まで、コンケン大学の教員1名(看護)と交換研修生6名(検査2、看護2、理学2名)が来学しました。滞在期間中は、向陽台病院、みつぐ苑、KMバイオロジクス等計9施設を見学。また、講義・実習参加に加え日本語交流、文化体験、福岡・天草及び市内観光をしました。短い期間でしたがサポート学生や他の多くの学生、教職員と充実した交流ができました。特にサポート学生とは大変仲良くなり、最終日には見送りにまで来て、名残を惜しんでいました。教職員、学生にとって良い刺激となった2週間でした。9月には本学からコンケン大学へ6名の学生が研修に行きます。(国際交流委員会)



米国短期留学生のレポート

(語学学校での活動について)

今回アメリカ短期留学の機会をいただき、1か月間現地の語学学校に通いました。そこでは主に文法やイディオム、スピーキングの授業を受けましたが、日本のような受け身の授業ではなく学生が主体的に学ぶという印象を強く受けました。私は授業を受けるにあたり、積極的に質問することを心掛けました。それと同時に周りの外国人学生に圧倒されて思うように発言できない悔しさも味わい、もっと英語を話せるようになりたいと思いました。改めて関係者の皆様へ感謝申し上げます。



看護学科2年
井上 結里加



(ホームステイについて)

今回、ホームステイしたのはフレンドリーで様々な国の方々と交流やパーティーが盛んな家族でした。平日はゲームやパーティー、買い物にボランティア、映画館に行き、毎週日曜日は教会にも行きました。私の家族は食前に必ず全員でお祈りをしてから食事をしました。また、ルームメイトの誕生日には全員を招き誕生日パーティーを催してくれ、体験しようにもできない貴重なアメリカの文化を体験できました。

私達を本当の家族として迎入れてくれたホストファミリー、留学に関わった全ての人に感謝しています。



医学検査学科3年
庄野 桃



(アメリカ留学の感想)

アメリカで過ごした時間は、毎日が新鮮でとても濃い充実した1ヶ月間でした。その中で、楽しかった思い出もあれば、苦勞したこともたくさんありました。全てのことが私にとって刺激的で良い経験となりました。以前と比べ、英語で自分の言いたいことが伝えられるようになったり、リスニング能力が成長したと感じています。今回、このプログラムに挑戦したことは自分の中で大きな自信となりました。これからもアメリカでの経験を忘れず、何事にも挑戦し続けられる人間になりたいです。



リハビリテーション学科
理学療法専攻4年
田代 愛理





Library

○**図書館報 2019 春号**を作成しました。『サイエンスカフェ』特集として、館長からの参加のお誘いや第1回～3回のご紹介。また、『私の部屋でランチを』一覧や新たに契約した電子ブック、電子ジャーナルのお知らせも掲載しています。どうぞご覧ください。
図書館ホームページ <http://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html> の【図書館について】

○**図書館のオリジナルグッズ**が出来ました。
図書館イメージキャラクターのホカボンが、クリアファイルや貸出用バッグとして登場！
図書館の各種イベント参加でプレゼント。
詳細は、図書館ホームページをご覧ください。



○『サイエンスカフェ』第2回は医学検査学科の山口類先生、第3回は共通教育センターの田中恵理先生、第4回は看護学科の戸渡先生でした。それぞれの研究についてのお話と参加者とのディスカッションが行われました。詳細は図書館ホームページをご覧ください。

図書(電子ブック)のご紹介 図書館蔵書の中から



図書館 e-Library は「いつでも」「どこでも」読書できる電子図書館サービスです。スマートフォン、タブレット、PC などご自身の端末で利用できます。旅行ガイド、料理、小説や就活関連の本などが読める電子ブックです。図書館ホームページ Top Database のホカボンのアイコンからご利用ください(学内者限定)。なお、医学医療の専門書は図書館蔵書検索 O P A C からご利用ください。

将来ビジョン 保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

ビジョン 1 社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1
教育改革の推進と学生ファーストの修学支援

ビジョン 1-2
独創的な研究の推進と大学院の充実

ビジョン 2 地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1
教育・研究組織の充実

ビジョン 2-2
魅力的な教育・研究環境の充実

ビジョン 3 10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化

ビジョン 3-1
学生・教職員の国際力の向上と海外の大学等との連携強化

ビジョン 3-2
教員と職員が協働する効率的・合理的な職場環境の構築

編集後記

令和になって初めての学園誌ぎんきょうです。本学の恒例の行事をお届けすると同時に新しい動きもお届けいたします。今回の号も馴染みのある動きと新しい動きをお楽しみください。



令和2年度 熊本保健科学大学 入試概要

■ 募集人員

学部	学科 / 専攻	募集人員	合計	
保健科学部	医学検査学科	100名	320名	
	看護学科	100名		
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻		40名
		生活機能療法学専攻		40名
		言語聴覚学専攻		40名

■ 入試区分別募集人員

入試区分	指定校推薦	一般推薦	一般	センター利用 (前期日程)	センター利用 (後期日程)	社会人	合計
医学検査学科	15名	35名	40名	5名	5名		100名
看護学科	15名	32名	43名	5名	5名		100名
リハビリテーション学科理学療法学専攻	5名	15名	15名	3名	2名	若干名	40名
リハビリテーション学科生活機能療法学専攻	5名	15名	15名	3名	2名	若干名	40名
リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	5名	15名	15名	3名	2名	若干名	40名
合計	45名	112名	128名	19名	16名	若干名	320名

■ 入学試験日程一覧

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	入学手続
指定校推薦	2019年11月1日(金) ～11月12日(火)	2019年11月16日(土)	11月22日(金)	2019年11月22日(金) ～12月6日(金)
一般推薦	2019年11月1日(金) ～11月12日(火)	2019年11月16日(土)	11月22日(金)	2019年11月22日(金) ～12月6日(金)
一般	2020年1月4日(土) ～1月29日(水)	2020年2月4日(火)	2月14日(金)	2020年2月14日(金) ～2月21日(金)
センター利用(前期日程)	2020年1月4日(土) ～1月29日(水)	個別試験なし	2月14日(金)	2020年2月14日(金) ～2月21日(金)
センター利用(後期日程)	2020年2月15日(土) ～2月27日(木)	2020年3月6日(金)	3月13日(金)	2020年3月13日(金) ～3月19日(木)
社会人	2019年10月15日(火) ～10月25日(金)	2019年11月2日(土)	11月22日(金)	2019年11月22日(金) ～12月6日(金)

●入試に関するお問い合わせ

熊本保健科学大学入試課

〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地
TEL096-275-2215(直通)

E-mail : nyushi@kumamoto-hsu.ac.jp http://www.kumamoto-hsu.ac.jp

オープンキャンパス!!

7/21
sun

8/18
sun

チャレンジ熊保大!!

推薦入試
対策講座

8/25 sun

一般入試
対策講座

12/8 sun



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において平成26年度大学機関別認証評価を受審し、平成27年3月10日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。

GINKYO GAKUEN TSUSHIN
"GINKYO" No.40

●学校法人银杏学園 熊本保健科学大学

〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地
TEL096-275-2111 FAX096-245-3126

http://www.kumamoto-hsu.ac.jp

●発行日 / 2019年7月31日